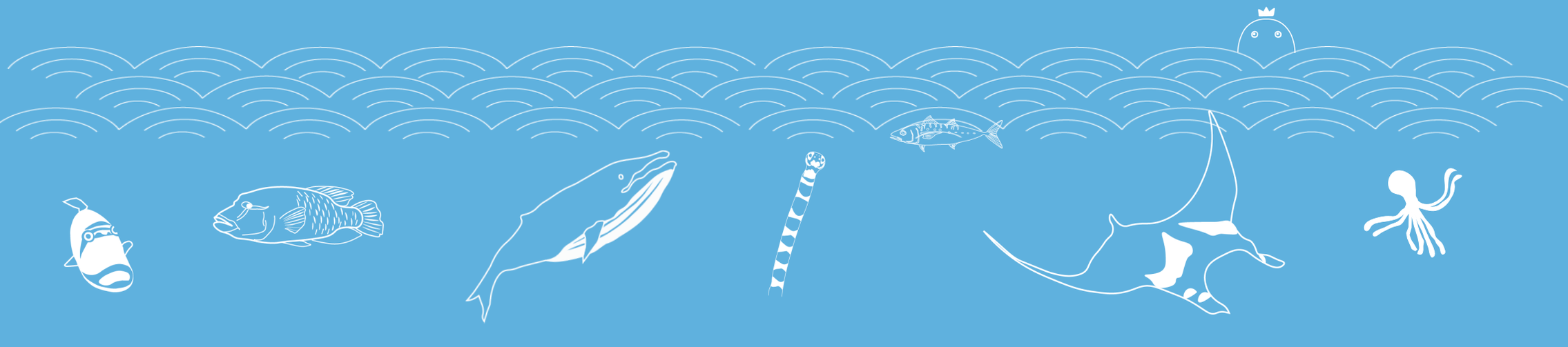
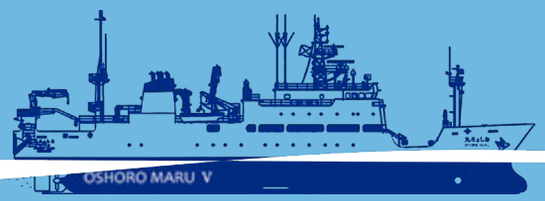
海の宝 2023



目　次

1. はじめに 1
2. イベント紹介 2
3. 海の宝アカデミックコンテスト2023 受賞者一覧 15
4. 海の宝アカデミックコンテスト2023 記念品と受賞作品 22
5. 海の宝アカデミックコンテスト2023 54



はじめに

海、それはいのちのふるさと。そこにはまだ見たこともない新しい可能性が眠っています。海を学び、体験することによって、人類や地球にとってのさらなる可能性、思いもつかなかった宝物を見つけ出してみませんか！

私たち日本人は、長い歴史の中で海から多くの恵みを受けてきました。こうした環境を未来へつないでいくためには、積極的に海を知り、楽しみ、守り、活かす取り組みが不可欠です。本事業では、次代を担う若者、主に中学・高校生を対象とした教育イベントを通じて、若者たちが「海」の素晴らしさを実感・体感し、知的好奇心を高めることができる場を作ることを目指しています。そして、自発的に学び、新たな「海の宝」を見出し、「海の宝アカデミックコンテスト」への挑戦を経て、新たな視点から海の未来と発展を考えてくれることを、大学研究者や関連する専門家とともに応援しています。

北海道大学は、その前身である札幌農学校時代から水産学教育に情熱を注ぎ、海に関する学術分野を切り拓いてきました。いまや海の科学は水産学の枠を超え、地球環境、農業、経済、芸術、文学など様々な分野と密接なかかわりを持つようになりました。さらに近年では、SDGsの視点で海に関する取り組みを広く議論することは当然のこととなっています。

海をテーマに融合したアカデミックユニット「海の北海道大学」では、コロナ禍の制約からようやく解放されはじめた今年、リモートでは得られない直接触れることの大切さを再認識する意味合いを込めて、「ホンモノの海の魅力を体験しよう」というテーマを設定し、全国の中学・高校生を対象として「海の宝アカデミックコンテスト2023全国大会」を含む多様な海の宝に関わるイベント12件を開催しました。

プログラム代表
藤森康澄

全国の中高生を対象とした「海の宝アカデミックコンテスト2023 全国大会 -海と日本PROJECT-」を行うにあたり、今を生きる人たちに「海」への関心を広げ、海の魅力、課題などを学び体験できるイベントを開催しました。また、Web「マリン・ラーニング」により、全国にイベントの様子や講演・コンテスト作品・ギャラリーなどを発信しました。

海の宝アカデミックコンテスト2023・ホンモノの海の魅力を体験しよう（海と日本2023）イベント一覧

開　催　日	イ　ベ　ン　ト　名
4月23日 － 8月26日 （ 7回 ）	大阪湾を知ろう！2023～海と日本PROJECT～ 海遊館　（大阪市）
6月 6日 － 9月20日	海の宝アカデミックコンテスト優秀作品上映 -海と日本PROJECT- 函館市国際水産・海洋総合研究センター
6月18日	新造練習船「うしお丸Ⅲ」見学会 in 虻田・洞爺 -海と日本PROJECT- 洞爺湖町　虻田漁港（大磯）
7月 1日 7月 8,22日 8月 6,19日	海をまるごとサイエンス-海と日本PROJECT- 北海道大学函館キャンパス
7月12日 7月27日 8月 9日	最先端の海の知を学ぼう-海と日本PROJECT- 北海道大学函館キャンパス
7月16日	魚のからだを覗いてみよう！-海と日本PROJECT- ～サケを“解体”してみよう！～ 函館市国際水産・海洋総合研究センター

開　催　日	イ　ベ　ン　ト　名
7月17日 7月29日 8月11日	海と日本PROJECT ミッション2023 「科学を見る目・芸術を見る目～“事実”を観察することから導き出す“真実”【海】をキーとして～」 千葉市科学館
7月22日	海の中を覗いてみよう！　海と日本PROJECT 香川大学
8月 5日	その“サーモン”どこからきたの？2023 ～海と日本PROJECT～ サケのふるさと千歳水族館
8月 8日	「おしょろ丸」が捉えた北極海 in 2023 -海と日本PROJECT- 函館港弁天埠頭
8月17日	海と日本PROJECT　鹿児島のサメを調べる ～サメ解剖教室～ かごしま水族館
11月 4日	海の宝アカデミックコンテスト2023 全国大会 -海と日本PROJECT- 北海道大学大学院水産科学研究院大講義室

大阪湾を知ろう！2023～海と日本PROJECT～

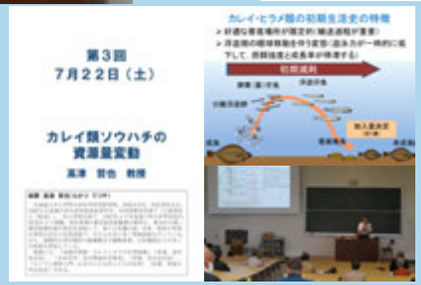
日　　程	４月２３日（日）/ ５月２７日（土）/６月４日（日）/６月１７日（土）/７月１６日（日）/８月２６日（土）
開催場所	海遊館、淀川海老江干潟、南港野鳥園
参加人数	１５９名
概　　要	海遊館とNPO法人 南港ウェットランドグループは、連携して地元の高等学校や中学校を対象として環境学習の支援を行っており、その一環として「大阪湾」をテーマにした取り組みを行っている。体験を通して、大阪湾の自然環境や人間活動が環境に与える影響を知ってもらうことをねらいとしている。コロナ対応が5類に移行し、感染予防のための中止はなかったが、7月に予定していた石干見漁体験（2回目）は、熱中症の危険性を考慮し中止となった。6月17日の石干見イベントは大阪市漁協業同組合が主催し、アカテガニ放仔観察会は、NPO法人南港ウェットランドグループが主催となった。

海の宝アカデミックコンテスト優秀作品上映
-海と日本PROJECT-

日　　程	６月６日（火）～９月２０日（水）
開催場所	函館市国際水産・海洋総合研究センター
参加人数	５，８５０名
概　　要	函館市国際水産・海洋総合研究センターのエントランスホールで、来館者に「海の宝アカデミックコンテスト2023」への参加を呼びかけることを目的として、「海の宝アカデミックコンテスト2022」優秀作品の電子紙芝居（スライド）を動画放映した。

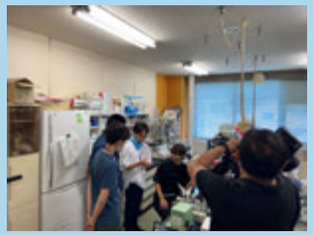
新造練習船「うしお丸Ⅲ」見学会 in 虻田・洞爺
-海と日本PROJECT-

日　　程	６月１８日（日）
開催場所	北海道虻田郡洞爺湖町　虻田漁港（大磯） 停泊中のうしお丸Ⅲ
参加人数	１０６名
概　　要	洞爺湖町 虻田漁港（大磯）の初入港に際し、地元の方々へ2022年新造となった北大附属練習船「うしお丸Ⅲ」の船内・船外見学いただき、その海洋調査を紹介し、加えて最新の観測機器や航海機器を披露して海とその研究現場への関心を高めてもらった。



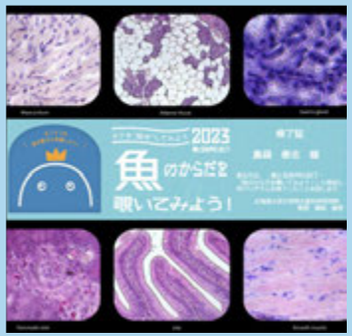
海をまるごとサイエンス-海と日本PROJECT-

日　　程	７月１日（土）　／　７月８日（土）　／　７月２２日（土）　／　８月６日（日）／　８月１９日（土）
開催場所	北海道大学函館キャンパス
参加人数	９９名（１回目）、９８名（２回目）、９９名（３回目）、９４名（４回目）、８２名（５回目）　総計４７２名
概　　要	北海道大学函館キャンパスで、北海道大学の先生が日替わりで教壇に立ち、養殖・漁業から海の資源、海洋生態系まで海を網羅する５つの講義を通して，参加者の皆様に海の生物の面白さを知ってもらうとともに、資源としての重要性について理解を深めてもらった。



最先端の海の知を学ぼう-海と日本PROJECT-

日　　程	７月１２日（水）／ ７月２７日（木）／ ８月９日（水）
開 催 場 所	北海道大学函館キャンパス
参 加 人 数	７名（１回目）、５名（２回目）、５名（３回目）　総計１７名
概　　要	北海道大学函館キャンパスで、研究室見学や実験体験を通じて、大学生と高校生の交流を深め、最先端の「海」の知識を得ることによって、「海」への興味関心を高めてもらった。



魚のからだを覗いてみよう！–海と日本PROJECT–～サケを“解体”してみよう～

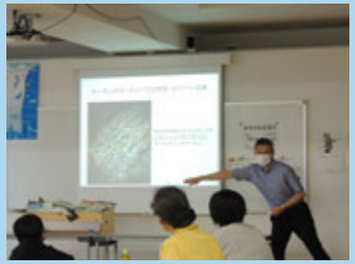
日　　程	７月１６日（日）
開 催 場 所	函館市国際水産・海洋総合研究センター
参 加 人 数	１０名
概　　要	函館市内の中学と高校から生徒を募集し、サケを「食事」と「科学」の視点で“解体”することで体の構造を理解しつつ、おいしいサーモン料理を食べて水産への興味・関心を高めてもらった。

海と日本PROJECT ミッション2023　科学を見る目・芸術を見る目
～“事実”を観察することから導き出す“真実”【海】をキーとして～

日　　程	７月１７日（月・祝）／ ７月２９日（土）
開催場所	館山市立博物館分館渚の博物館、千葉県天然記念物 、千葉市美術館
参加人数	１４名（７月１７日）、 １５名（７月２９日） 合計２９名
概　　要	館山市立博物館分館「渚の博物館」で房総半島の伝統的な漁撈技術や海に関わる人々の暮らしを学ぶため、子供がわかるように解説し、博物館では、今回のテーマである「事実を観察することから導き出す真実【海】」をキーとして展示資料を深堀りし、観察眼を養った。

海の中を覗いてみよう！　海と日本PROJECT

日　　程	７月２２日（土）　９：００～１６：００
開催場所	香川大学瀬戸内圏研究センター　庵治マリンステーション
参加人数	２４名
概　　要	高校生を対象に、体験航海を行うと共に、海洋生物生産の場としての海に関する講義ならびに実習を行った。参加した高校生にとって、調査船・カラヌスⅢでの海洋観測はなかなか体験できないことであり、貴重な経験となり身近な海についてより関心を深めてもらった。



その“サーモン”どこからきたの？2023 ～海と日本PROJECT～

日　　程	８月５日（土）　１３：００ ～ １５：００
開催場所	サケのふるさと千歳水族館　２階学習室
参加人数	３１名
概　　要	北の「海の宝」の代表格である「サケ」を中心とした飼育・展示と「サケ」を通した教育活動を長期間に渡り実施してきた。本イベントでは、サケのふるさと千歳水族館と北海道大学大学院水産科学研究院および北海道内で回転ずしを展開している企業とが協力し、寿司ネタとしての「サーモン・サケ」に焦点を当て、座学、解剖、調理、試食といった五感で体験する食育により、「海の宝：サーモン・サケ」を理解してもらい、次世代を担う若者に「海や水産」への興味や関心を高めてもらうことを目的とし実施した。

「おしょろ丸」が捉えた北極海 in 2023 -海と日本PROJECT-

日　　程	８月８日（火）
開 催 場 所	北海道函館市弁天町弁天埠頭　停泊中のおしょろ丸Ｖ
参 加 人 数	１７名
概　　要	２０２３年に北海道大学附属練習船おしょろ丸が実施した北極海航海から、その航海の様子や研究・調査の様子を夏休み中の子供たちに紹介し、北極海で得られた海氷と南極氷床の違いを体感させ、加えておしょろ丸の船内設備や航海計器も披露して、海と環境、その研究現場への関心を高めた。

海と日本PROJECT　鹿児島のサメを調べる～サメ解剖教室～

日　　程	８月１７日（木）　１３：３０ ～ １７：３０
開催場所	かごしま水族館　レクチャールーム
参加人数	１６名
概　　要	鹿児島県内の定置網等で混獲されたサメを用いてサメについて学ぶ機会を提供し、解剖等の体験学習を通して「サメ」や「海」への興味や理解を深めた。

海の宝アカデミックコンテスト2023 全国大会 –海と日本PROJECT–

日　　程	１１月４日（土）　１０：００ ～ １６：００
開 催 場 所	北海道大学大学院水産科学研究院大講義室
参 加 人 数	書類コンテスト・頂上コンテスト参加総数　６７２名
概　　要	「海」への知的好奇心を持った心豊かな若者を育成するため、全国の中学・高校生を対象とし、「海」の素晴らしさを実感・体験できる教育システムを端緒として、それぞれが「海の宝」を探し、自発的に「海」を語り活動する機会に中高生を導く。

日本財団
THE NIPPON FOUNDATION
海と日本 PROJECT
マリン・カルチャー部門 海の宝大賞
海の宝
アカデミックコンテスト
2023

日本財団
THE NIPPON FOUNDATION
海と日本 PROJECT
マリン・サイエンス部門 海の宝大賞
海の宝
アカデミックコンテスト
2023
おしょろ丸カレー

あなたにとって「海の宝」は、なんですか？

海をテーマにしたアカデミックユニット「海の北海道大学」では、全国の中学・高校生を対象に、「海の宝アカデミックコンテスト2023全国大会」を開催しました。２０２３年はアフターコロナへの転換にともない、いろいろな活動がコロナ禍前の状態に戻ってきました。そのような中、８回目となる今回のコンテストには全国から２７３作品の応募がありました。

審査員による厳正な書類審査の結果、全国４ブロックから１０作品が頂上コンテストにノミネートされました。１１月４日（土）に北海道大学函館キャンパスで開催された頂上コンテストでは、多くの会場参加者と審査員・ウェブ参加審査員のもと、作品発表、質疑応答、審査が進められ、大賞・優秀賞・奨励賞の表彰が行われました。さらに、多数の海洋関連の団体、機関から数々の特別賞が授与されました。

海の宝アカデミックコンテスト2023 全国大会 受賞者一覧

頂上コンテスト

マリン・サイエンス部門

海の宝大賞…１作品　りゅうぐうのつかい賞（優秀賞）…２作品　ちょうちんあんこう賞（奨励賞）…２作品

マリン・カルチャー部門

海の宝大賞…１作品　おとひめ賞（優秀賞）…２作品　うらしま賞（奨励賞）…２作品

全国４ブロック審査

優秀賞…７作品　奨励賞…３７作品

特別賞…１０作品
（頂上コンテスト２部門を対象に、日本財団をはじめ、自治体、教育機関、企業からの特別表彰と副賞）

マリン・サイエンス部門（応募総数：１０８作品）

受賞名	題名	受賞者名
海の宝大賞	アマモ醤油～ジャマモと呼ばれた海草の可能性～	平岩恋季（岡山学芸館高等学校）
りゅうぐうのつかい賞（優秀賞）	魚類の性転換が引き起こす生体内外の変化と採血を用いた性識別の確立	相木春人・石黒翠碧 （浅野中学・高等学校）
りゅうぐうのつかい賞（優秀賞）	神秘の火！？ 不知火現象　～不知火の実態と発生原理～	徳丸亮汰・新宅草太・本田琢磨・小林瑞・米田直人・村上聖真・西川幸輝・吉田大暉 （熊本県立宇土高等学校　科学部地学班）
ちょうちんあんこう賞（奨励賞）	古平町丸山岬のアマモ場の再生に向けてⅡ	太田渉琉・佐藤翼・小原玖実・佐々木姫夏詩・本間愛結美・諏訪悠介 （北海道小樽水産高等学校　栽培漁業科海洋班）
ちょうちんあんこう賞（奨励賞）	波浪観測値を音程変換して創造した海洋音楽に含まれる 1/fゆらぎ現象の検証 -自らのヴァイオリン二重奏で奏でる海洋音楽の癒し効果-	横内敬文・野中太陽 （学校法人成田山教育財団　成田高等学校）
北海道・東北ブロック　優秀賞	宮城のわかめ養殖を助ける～わかめの定量的観察とクローンわかめ有用化～	菊地兼太朗・井上康介・千葉瑛翼・我妻優史・千田琴乃・木下倫那・青木駿和 （宮城県仙台第三高等学校）
関東・中部ブロック　優秀賞	海や川を本来の姿に戻すロボットの製作 ～ゴミを集めるサメ～	竹林愛未・永田賢之介・森隆司・モリス嘉幸樹・山﨑隆人・和田沙来 （東京工業大学附属科学技術高等学校）
近畿・中国ブロック　優秀賞	海水で食糧難を救う！？	小谷真央・足立共・木野晴菜・堀口幸博・森田暖大（関西大倉高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　優秀賞	不知火海を吹く風を探る ～気象観測所のない永尾を吹く風の推測～	徳丸亮汰・新宅草太・本田琢磨・小林瑞西川幸輝・吉田大暉・米田直人・村上聖真 （熊本県立宇土高等学校科学部地学班）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

受賞名	題名	受賞者名
北海道・東北ブロック 奨励賞	毎年の季節ごとの海水温の変化が生物の営みを支える	本多琥珀・清水大雅・大山初姫・神采花・山本怜・松本圭一郎（北海道函館水産高等学校海洋技術科課題研究２班）
北海道・東北ブロック 奨励賞	安心して魚をまるごと食べたい	大串雪花（北海道教育大学附属旭川中学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	魚力で発電!?	中村昌嗣・岩﨑凌・須藤達紀（佐野日本大学中等教育学校 BOKU 達文系なんです。）
関東・中部ブロック 奨励賞	ウニからの漆喰工芸プロジェクト ～海洋保護とアートの融合～	加藤浬大（智学館中等教育学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	ジャガイモ由来天然毒素成分ソラニンを用いた環境負荷低減農薬開発の検討	井手渚・岡田智愛・紺野悠菜（神奈川県立厚木高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	魚由来の油吸着材の作成の検討	梶雅・小山夏奈・寺田結月・山崎はるか・鈴木芙果（神奈川県立厚木高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	強いサンゴを探せ！ ー移植先でも負けないサンゴの探索ー	磯川昴（玉川学園 中学部）
関東・中部ブロック 奨励賞	メタン発酵物語	佃諒祐・川西琳大（神奈川県逗子開成高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	半導体を用いた温度差発電 ～砂浜発電の実用化に向けて～	田口翔陽・近藤寛人・宮川陽輝（神奈川県逗子開成高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	μCTを用いたホシザメの歯と鱗の構造的関連性	栗山奈月（青稜高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	まだ知られていない巻き貝の行動 ～米子湾におけるウミニナ類の選好場所～	山下慶・野﨑紗渚・森本彩吹（岡山学芸館高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	全てのアマモ実生を青葉に - もやし化させずに本葉展開させるプロトコル開発 -	直野璃々花・岩本深那・時岡小舞・前谷日向（岡山学芸館高等学校）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

受賞名	題名	受賞者名
近畿・中国ブロック　奨励賞	海上都市の実現に向けて	原田裕史・有本大哉・畑森瞬助（岡山学芸館高等学校）
近畿・中国ブロック　奨励賞	瀬戸内海の栄養塩濃度と耕地面積の変化の関係について	鶴野敦也（岡山学芸館高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	海の音について	藤原莞大（徳島県立徳島科学技術高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	寒天電池を活用した災害時の避難具の開発	坂下　弘典・窄大和・水戸翔大・小幡一路（長崎県立五島高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック　奨励賞	浮島現象の発生・観測条件 ～再現実験と野外観測から考える～	徳丸亮汰・新宅草太・本田琢磨・西川幸輝・吉田大暉・小林瑞・米田直人・村上聖真（熊本県立宇土高等学校科学部地学班）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

マリン・カルチャー部門（応募総数：１６５作品）

受 賞 名	題　　名	受 賞 者 名
海の宝大賞	海なし県の未利用魚活用	山本一慧・小宮山泰盛・岡村琉生・矢萩貴也・近藤龍之介・赤羽凌泰（作新学院高等学校　魚類・水生生物探究チーム）
おとひめ賞（優秀賞）	うみぼうずのおもてなし	村田吏（北海道函館中部高等学校）
おとひめ賞（優秀賞）	人心あれば魚心～手と鰭でつなぐ絆～	大西寅ノ介　・後藤一樹・中西煌星（愛媛県立長浜高等学校）
うらしま賞（奨励賞）	海人を追いかけて	糸数月香　・屋比久優妃・知念美音（沖縄県立那覇工業高等学校）
うらしま賞（奨励賞）	京のはあもにい！～京都発世界！レトルト食品（鱧の西京味噌煮）の可能性を追求せよ～	江部花音・上山幸菜（京都先端科学大学附属中学校・はあもにいず）
北海道・東北ブロック　優秀賞	さんごしょうに　みなさんごしょうたい	都筑暖和（北海道札幌南高等学校）
関東・中部ブロック　優秀賞	海鳥が地球を救う！？	手島晴風（千葉敬愛高等学校） 手島幸風（千葉市立有吉中学校）
近畿・中国ブロック　優秀賞	鳴り砂から考える海洋問題	川口聡太郎・黒川翔太（岡山学芸館高等学校）
北海道・東北ブロック　奨励賞	海のインスタレーション	北海道七飯養護学校高等部1年
北海道・東北ブロック　奨励賞	「海のコラージュ」ができるまで	北海道七飯養護学校中学部１年
北海道・東北ブロック　奨励賞	海の音	佐々木彪人（東北学院高等学校）
北海道・東北ブロック　奨励賞	「海へゆく～虹の海へ」	北海道函館養護学校高等部Ａグループ
北海道・東北ブロック　奨励賞	「続・海へゆく～海をつくる」	北海道函館養護学校高等部Ａグループ
北海道・東北ブロック　奨励賞	「ホッシのプラップラッ」	北海道函館養護学校高等部Ｂグループ

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

受賞名	題名	受賞者名
北海道・東北ブロック 奨励賞	モクズガニの食用利用について	佐藤悠太（札幌開成中等教育学校）
北海道・東北ブロック 奨励賞	健康に配慮したわかめピザ	後藤桃彩・佐々木愛花・渡辺真生・村上琉月（宮城県仙台第三高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	アオサでMagic Cooking	新谷悠・園田星空・永宮知花（福井県立若狭高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	フィシュ太郎とゴミの遊び場	亀田紫乃・阿部光陽・牛込奈優里・澤井音羽（佐野日本大学中等教育学校 チームフィシュ太郎）
関東・中部ブロック 奨励賞	海のたすけ愛	小林碧・小林優華（茨城県立並木中等教育学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	～福島第一原子力発電所～ALPS処理水について	稲葉一仁（神奈川県逗子開成高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	夜のイルミネーション：ウミホタル	中山真央子・十川理世（市川高等学校）
関東・中部ブロック 奨励賞	手賀沼流域のイシガイ目二枚貝 ～川でも見つかる二枚貝！？～	小野亮太朗・松永怜也（東邦大学付属東邦高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	クライシーストーリー（CRY SEA STORY）	島貫菜々・藤澤心・長井裕菜・三谷蒼天（大阪府立生野高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	音におっとおどろき！！	佐藤凪 ・小柴結依子（近畿大学附属豊岡高等学校）
近畿・中国ブロック 奨励賞	エコロケーションの秘密	赤田琉衣（岡山学芸館高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック 奨励賞	海と死後の世界のつながりについて	吉川真央・フィッシャー竹下花菜・白石群丈（沖縄尚学高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック 奨励賞	廃棄物で何ができるか	大山紬菜・菊野夏音（大島高等学校）
四国・九州・沖縄ブロック 奨励賞	Honey＆Coral Project	當間南々穂（沖縄県立開邦高等学校）・當間一翔（那覇市立石田中学校）

「優秀賞」「奨励賞」は順不同、受付順に掲載。

特別賞

受賞名	題名	受賞者名
日本海洋科学振興財団 オーシャン・アート賞	波浪観測値を音程変換して創造した海洋音楽に含まれる1/fゆらぎ現象の検証 -自らのヴァイオリン二重奏で奏でる海洋音楽の癒し効果-	横内敬文・野中太陽 （学校法人成田山教育財団　成田高等学校）
千葉市科学館賞	人心あれば魚心～手と鰭でつなぐ絆～	大西寅ノ介　・後藤一樹・中西煌星 （愛媛県立長浜高等学校）
海文堂出版・北水ブックス賞	古平町丸山岬のアマモ場の再生に向けてⅡ	太田渉琉・佐藤翼・小原玖実・佐々木姫夏詩・本間愛結美・諏訪悠介（北海道小樽水産高等学校　栽培漁業科海洋班）
マリンイノベーション特別賞	うみぼうずのおもてなし	村田吏（北海道函館中部高等学校）
医食同源賞	アマモ醤油～ジャマモと呼ばれた海草の可能性～	平岩恋季（岡山学芸館高等学校）
道南伝統食品協同組合賞	海人を追いかけて	糸数月香　・屋比久優妃・知念美音 （沖縄県立那覇工業高等学校）
函館市の魚「イカ」賞	神秘の火！？ 不知火現象　～不知火の実態と発生原理～	徳丸亮汰・新宅草太・本田琢磨・小林瑞・米田直人・村上聖真・西川幸輝・吉田大暉 （熊本県立宇土高等学校　科学部地学班）
日本財団賞	京のはあもにい！～京都発世界！レトルト食品（鱧の西京味噌煮）の可能性を追求せよ～	江部花音・上山幸菜（京都先端科学大学附属中学校・はあもにいず）
北海道大学水産学部賞	魚類の性転換が引き起こす生体内外の変化と採血を用いた性識別の確立	相木春人・石黒翠碧 （浅野中学・高等学校）
北海道大学水産学部賞	海なし県の未利用魚活用	山本一慧・小宮山泰盛・岡村琉生・矢萩貴也・近藤龍之介・赤羽凌泰（作新学院高等学校　魚類・水生生物探究チーム）

記念品

賞旗

記念リボン

受賞者名入りペナント

海の宝大賞

りゅうぐうのつかい賞 / ちょうちんあんこう賞/

おとひめ賞 /うらしま賞

賞旗製作

クレハタヤ染工場

染色家（印染/型絵染/筒引染 ）

浦　啓之輔　(Keinosuke Ura)

昭和9年広島県呉市生まれ。
戦後、染物屋で修行した後に昭和36年に独立。
クレハタヤ染工場を創立し、褪せることなき志「色染め、心染め、日本の染め」を掲げ、大漁旗など数々の芸術品を今なお世に送り出している。

表彰状

海の宝大賞

りゅうぐうのつかい賞

ちょうちんあんこう賞

おとひめ賞

うらしま賞

記念品一式

- 北海道大学オリジナルグッズ
- 海の宝アカデミックコンテスト2023グッズ
- おしょろ丸カレー

副賞

■おしょろ丸カレー

海の宝大賞（３０食）

りゅうぐうのつかい賞（１０食）

ちょうちんあんこう賞（１０食）

おとひめ賞（１０食）

うらしま賞（１０食）

特別賞 副賞

日本海洋科学振興財団オーシャン・アート賞

プレゼンター：日本海洋科学振興財団

■海峡サーモンの詰め合わせ

千葉市科学館賞

プレゼンター：千葉市科学館

■千葉市科学館オリジナルグッズ詰め合わせ

函館市の魚「イカ」賞

プレゼンター：函館市

■イカ製品詰め合わせ

海文堂出版・北水ブックス賞

プレゼンター：海文堂出版株式会社

■北水ブックス既刊１１点セット

マリンイノベーション特別賞

プレゼンター：北海道マリンイノベーション株式会社

■北大ガゴメ商品セット

医食同源賞

プレゼンター：株式会社医食同源

北海道大学水産学部賞　　プレゼンター：北海道大学大学院水産科学研究院

■おしょろ丸グッズ

日本財団賞　　プレゼンター：日本財団

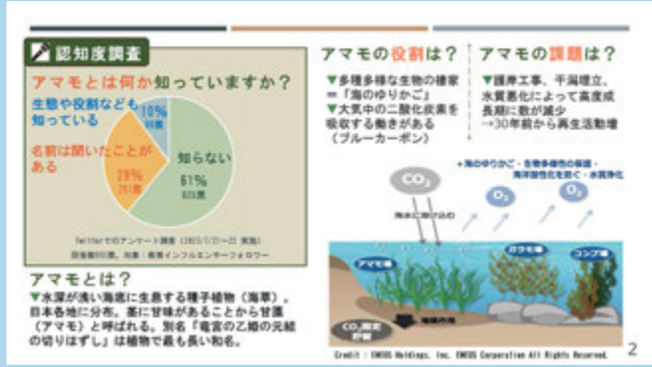
■海と日本PROJECT　コラボ商品の詰め合わせ

道南伝統食品協同組合賞　　プレゼンター：道南伝統食品協同組合

■とろろこんぶセット（道南伝統食品協同組合）

①

②



③

マリン・サイエンス部門　**海の宝大賞（最優秀賞）**
/医食同源賞
「アマモ醤油～ジャマモと呼ばれた海草の可能性～」
平岩恋季（岡山学芸館高等学校）

作品概要

私の高校が取り組むアマモ場再生活動を通して、アマモの認知度の低さを解決したいと考えた。人々の関心を惹くために、小麦の代わりにアマモを使って醤油を開発する。醸造方法や分析は（株）キミセ醤油にご指導いただいている。アマモ醤油に適した種子の調合比率を探るために4パターンを醸造し、発酵一ヶ月後の風味や旨味値、塩味分を計測した。どれも順調に発酵が進んでいるが、生産性や塩味分等の課題があるため、研究を継続し解決策を探していきたい。

審査員評

まずは、アマモに炭水化物が多いと知らしめてくださったことに感謝です。
これまで海藻と言えば、食物繊維や脂質にしか目が行っておりませんでした。
この前の発表で、アマモが減ってきているとの話が有ったので、人間がしっかりと考えて計画的に繁殖して計画的に有効利用できる方法を考えて欲しいと思いました。
醤油に限らず、酒、醸造酢など夢は広がります。頑張ってください。

株式会社　医食同源　代表取締役　中山　一郎

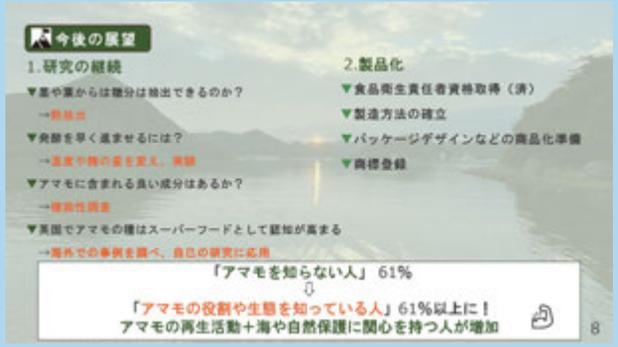
④

⑤

⑥

⑦

⑧

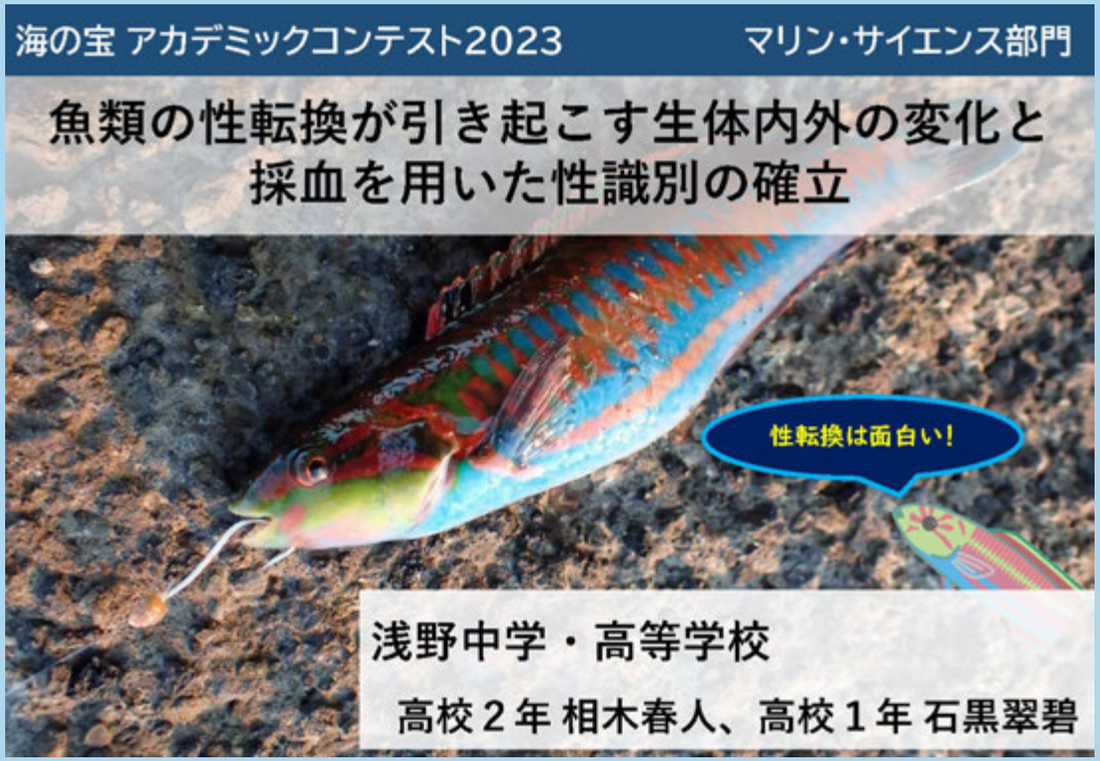


受賞者の声

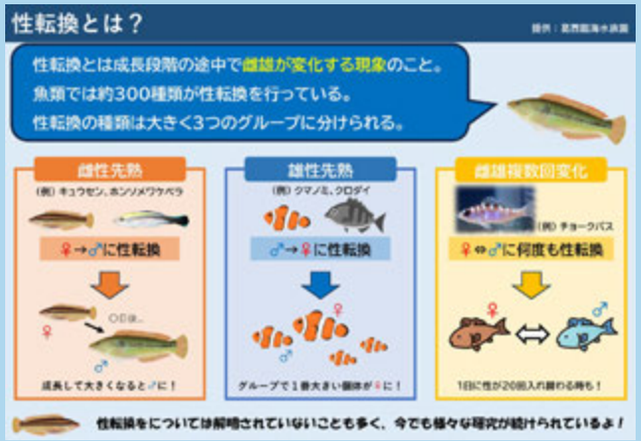
海に関する様々な角度での研究を直接聞ける貴重な機会でした。特に同じ食に関する発表者とは意見交換をしたり、新たな視点をもらうことができました。審査員の方からいただいたアドバイスのうち「アマモの種を採取・活用による生態系への影響を考えてみては」という点はテーマの1つとして研究を継続してまいります。アマモ醤油の商品化を目指し、改良や広報活動などの活動を行なっていきたいです。

本当にありがとうございました。

①



②



③

マリン・サイエンス部門　りゅうぐうのつかい賞
/北海道大学水産学部賞
「魚類の性転換が引き起こす生体内外の変化と採血を用いた性識別の確立」
相木春人・石黒翠碧（浅野中学・高等学校）

作品概要

近年、地球温暖化や水質汚染などの影響によって海に生息している魚類の数は減少傾向にあるため、魚類を人工的に繁殖させることは必要である。しかし、魚類の中には雌雄が途中で変化するものも多く、見た目では雌雄を判別できない種も多く存在する。本研究では、採血で雌雄を判別する指標を確立し、ベラ科の近縁種を用いた性転換に与える影響や体内外の変化を明らかにすることで、生物を殺さず、効率的な繁殖を促す環境を作ることを目指した。

審査員評

本発表は、性転換魚の雌性先熟型に属し、地元で採集可能な2魚種を用いた生理学的研究成果でした。将来的には生殖腺を解剖して観察せずに「微量の血液」で性判別を可能とすることを目指したそうです。赤血球密度等に性差を認めたが、魚種により傾向が異なることを明らかにし、魚種による違いを考察してくれました。使える手法が限られているなか、緻密な研究成果が得られたものと思います。今後は、性ホルモンも分析して核心に迫りたいとのことですので期待しています。

北海道大学大学院水産科学研究院　教授　工藤　秀明

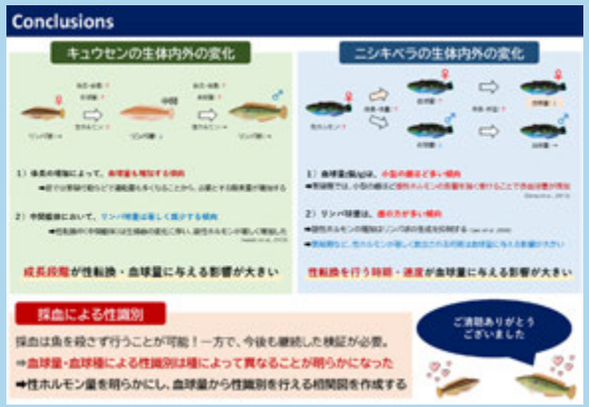
④

⑤

⑥

⑦

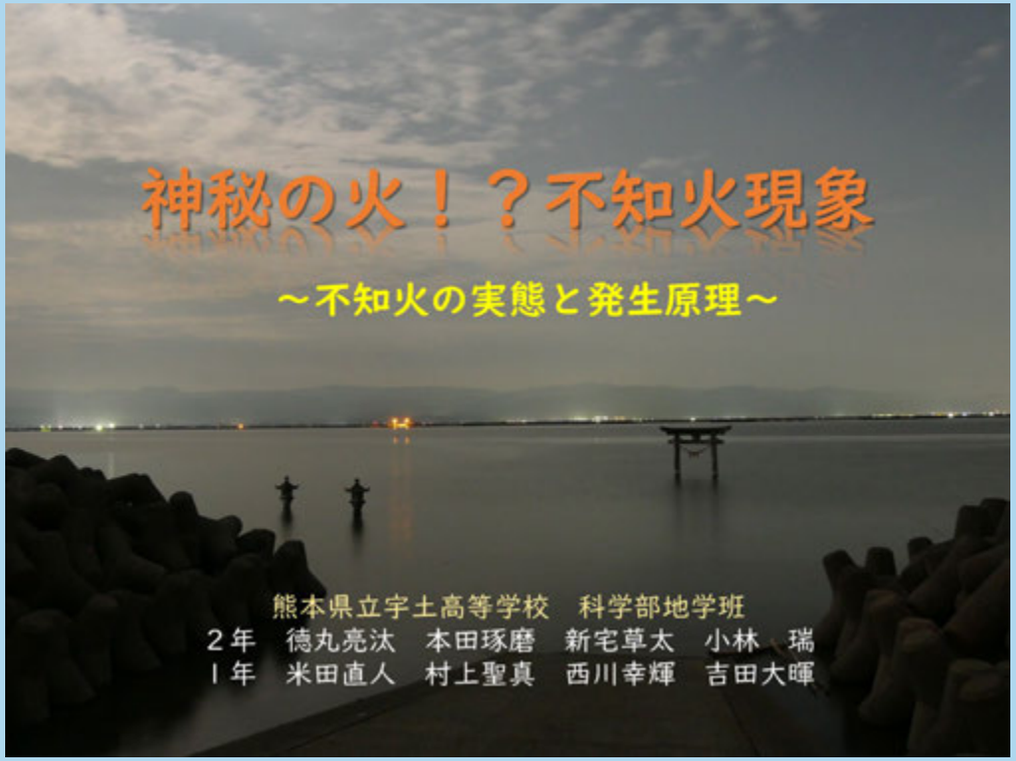
⑧



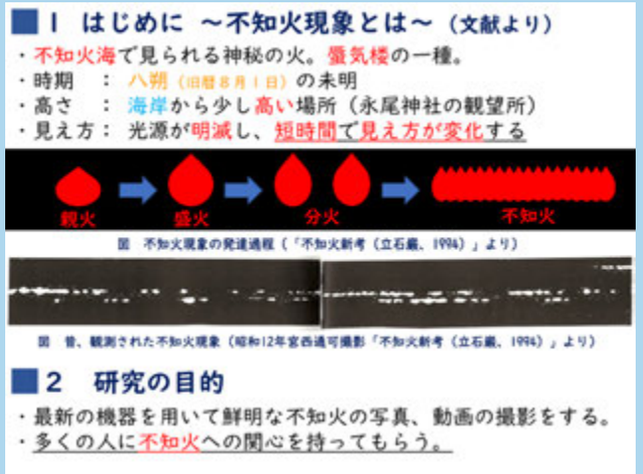
受賞者の声

今回りゅうぐうのつかい賞、特別賞をいただいたこと、また審査員の方から貴重なご意見をいただいたことをとても嬉しく思います。今回の現地での大会を通じて海を守るために活動している様々な人の発表を聞き、そして交流をすることができて、そこでしかできない体験をすることができました。今回の大会を通じてこれからも研究を続け、海を保全するために活動をしていきたいと思います。今回はこの素晴らしい大会に参加させていただいてありがとうございました。

①



②



■１　はじめに　～不知火現象とは～（文献より）

・不知火海で見られる神秘の火。蜃気楼の一種。
・時期　：　八朔（旧暦８月１日）の未明
・高さ　：　海岸から少し高い場所（永尾神社の観望所）
・見え方：　光源が明滅し、短時間で見え方が変化する

図　不知火現象の発達過程（「不知火新考（立石巌、1994）」より）

図　昔、観測された不知火現象（昭和12年宮西通可撮影「不知火新考（立石巌、1994）」より）

■２　研究の目的

・最新の機器を用いて鮮明な不知火の写真、動画の撮影をする。
・多くの人に不知火への関心を持ってもらう。

③

■３　不知火観測

（１）方法

以前、不知火が見られていた熊本県宇城市不知火町永尾神社で観測を行った。

マリン・サイエンス部門　りゅうぐうのつかい賞
/函館市の魚「イカ」賞

「神秘の火！？ 不知火現象　～不知火の実態と発生原理～」

徳丸亮汰・新宅草太・本田琢磨・小林瑞・米田直人・村上聖真・西川幸輝・吉田大暉（熊本県立宇土高等学校　科学部地学班）

作品概要

私たちは地元である不知火海で見られるとされる不知火現象について研究を進めています。 過去には永尾神社から大島方面にかけて見られていたとされていました。しかし現在不知火は環境変化のせいか全く見られておらず、あまり認知されていません。さらに現在は観測を行う人さえも減少傾向にあります。そこで私たちは、不知火の発生原理・条件、観測や再現などに取り組み、多くの人に不知火海の宝である不知火現象とそれを取り巻く環境問題について関心を持ってもらいたいと考えています。

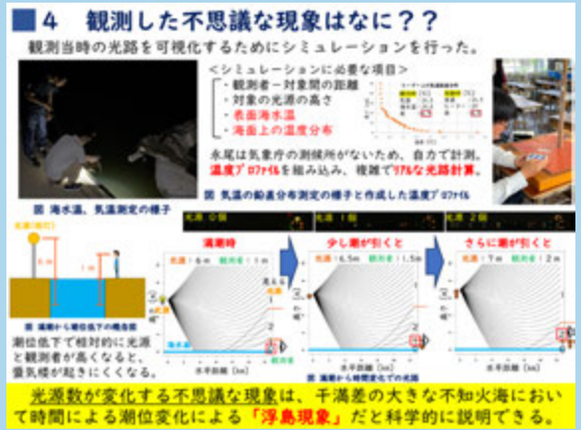
審査員評

神秘の火と言われた不知火を科学的な観点から研究を進めたことが，非常に興味深く感じられました。不知火も漁火があれば見られるかもしれないということが，函館にもイカ釣り漁船が灯す漁火があるので，非常に親近感を感じました。不知火の再現実験は面白い挑戦だったのではないでしょうか。ただ，研究を進める中で，海の豊かさが失われてきていることがわかったということは残念です。また，不知火が見られるようになるといいですね。

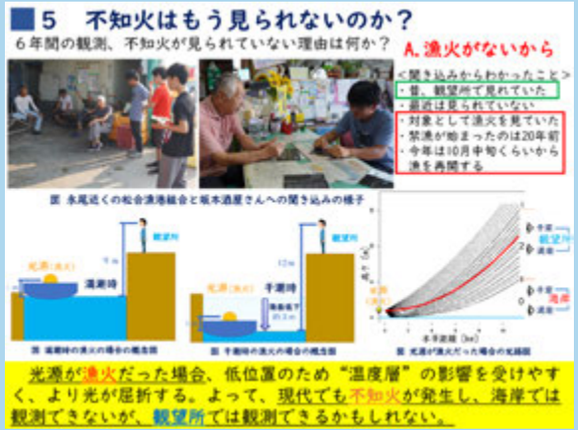
函館市企画部国際水産・海洋都市推進室　室長　山口　綾

④

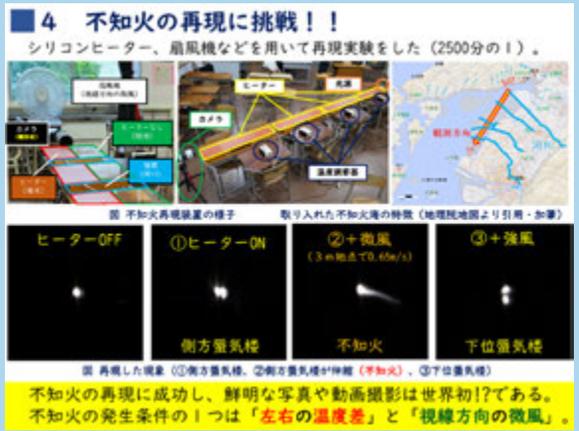
⑤



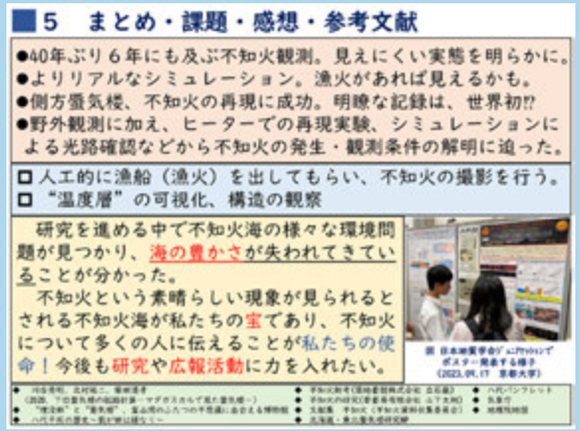
⑥



⑦



⑧

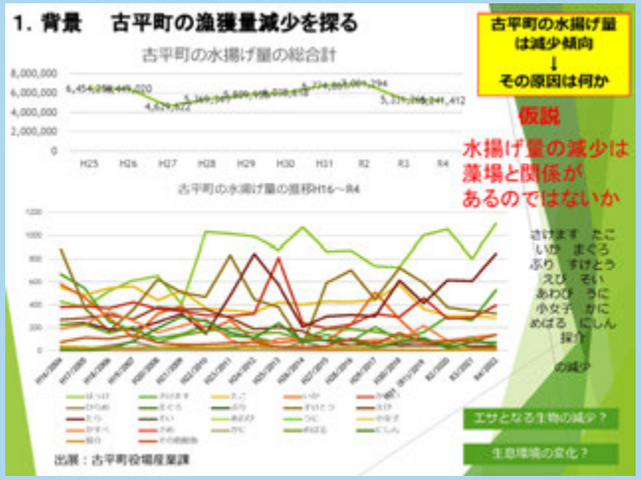


受賞者の声

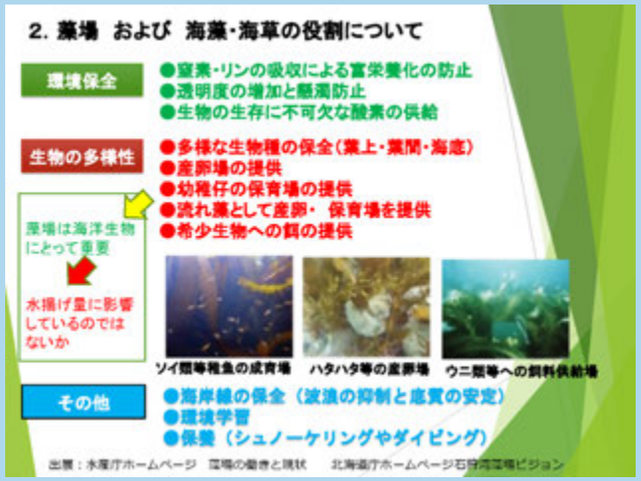
頂上コンテストに参加させていただいたこと、りゅうぐうのつかい賞、イカ賞を頂けたことをとてもありがたく思います。私たちの研究と大きく関わりのある「漁火」という言葉を函館の街で多く見られたことにとても驚きました。また、ほかの学校の引き込まれるような発表に触れることができとても勉強になりました。今回発表することで少しでも不知火や海の環境問題について関心を持っていただけたらと思います。

①

②



③



マリン・サイエンス部門　ちょうちんあんこう賞
/海文堂出版・北水ブックス賞

「古平町丸山岬のアマモ場の再生に向けてⅡ」

太田渉琉・佐藤翼・小原玖実・佐々木姫夏詩・本間愛結美・諏訪悠介
（北海道小樽水産高等学校　栽培漁業科海洋班）

作品概要

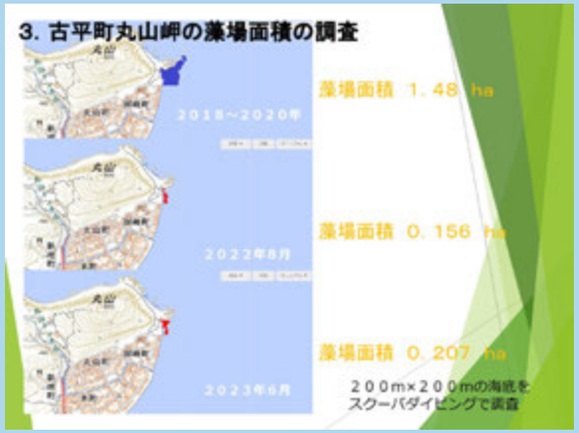
古平町の漁獲量を調べてみると地先の魚が種類によって減少していました。実際に古平町の海に潜った際に海藻類が少ないことに気付き、藻場について調べてみると減少傾向にあることがわかりました。それらを踏まえ、私たちは藻場の減少が原因ではないかと仮説を立てました。そこで調べていくうちに藻場が生物に色々な影響を与えていることに気付き、藻場を増やしていく活動をしていきました。

審査員評

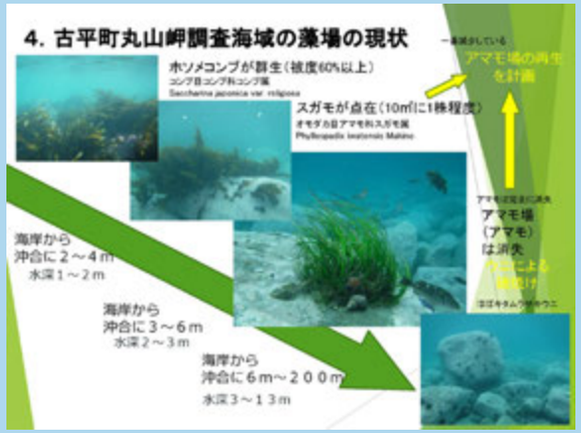
藻場の調査も、スガモの移植も、メンバーのみなさんが自らダイビングで行っているところが、水高さんらしくて印象的でした。スライド冒頭の写真からは、チームワークの良さが伝わってきました。審査員の方々からいただいた貴重なアドバイスをもとに、これからもⅢ、Ⅳ、Ⅴ……と研究・実践を続けていってください。そして、いつかアマモ場が復活する日を楽しみにしています。

海文堂出版株式会社　編集部　岩本 登志雄

④



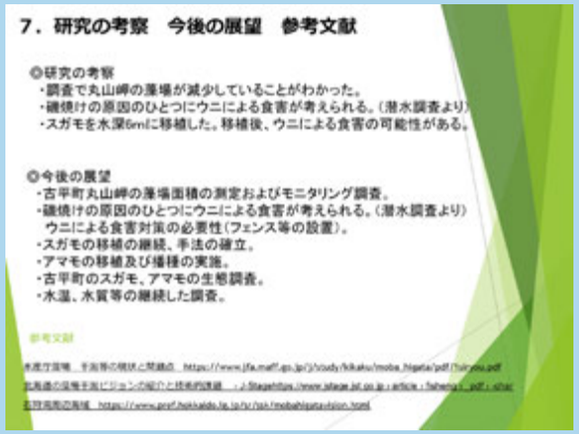
⑤



⑥

⑦

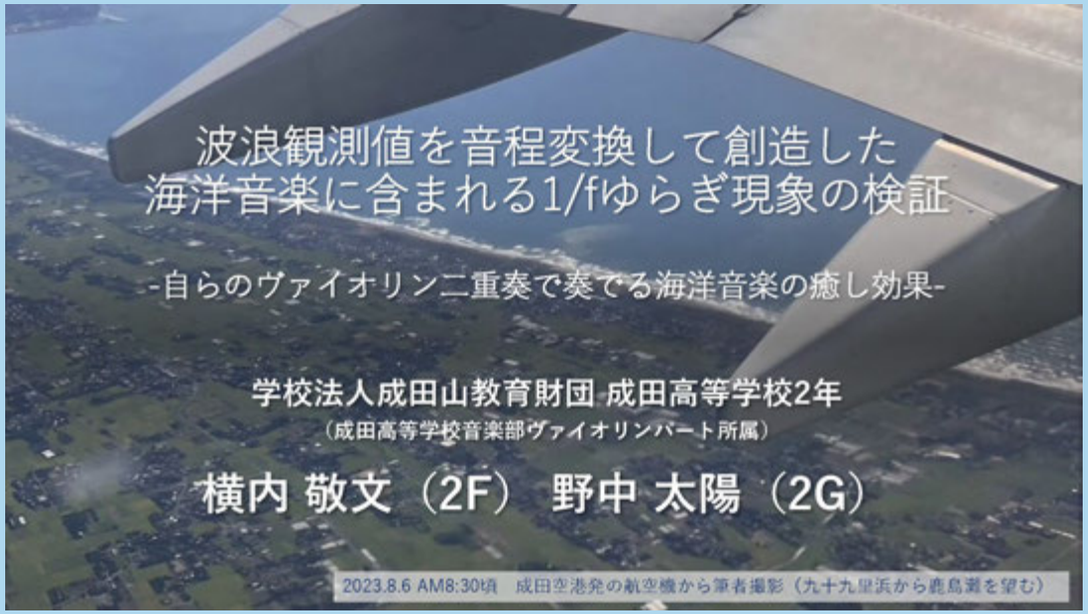
⑧



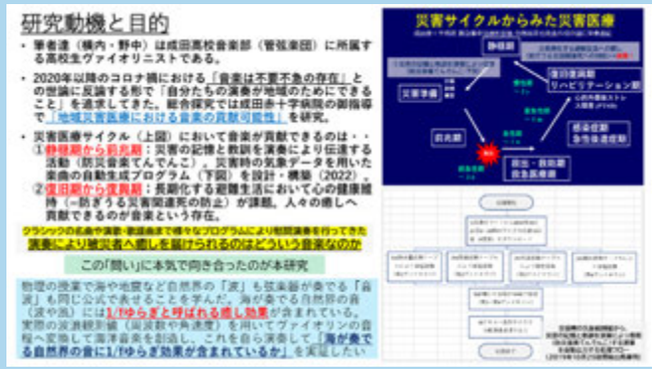
受賞者の声

この度は、海の宝アカデミックコンテストに参加させていただきありがとうございました。二つの賞を受賞することができました。この研究は、先輩達から受け継いで改良し、新たなことにも挑戦した研究です。これからも、海の環境を守るために研究を続けていきたいと思います。

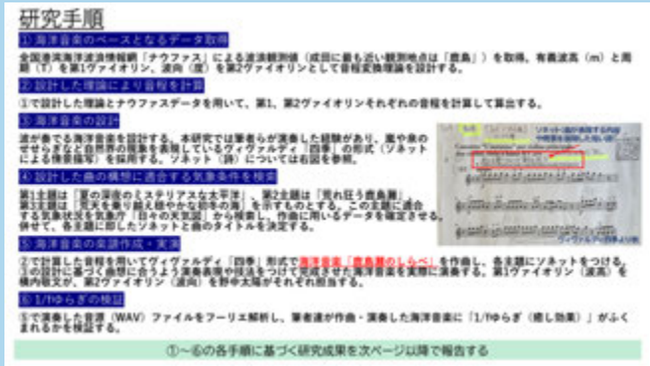
①



②



③



マリン・サイエンス部門　りゅうぐうのつかい賞
/日本海洋科学振興財団オーシャン・アート賞
「波浪観測値を音程変換して創造した海洋音楽に含まれる1/fゆらぎ現象の検証」
-自らのヴァイオリン二重奏で奏でる海洋音楽の癒し効果-
横内敬文・野中太陽（学校法人成田山教育財団　成田高等学校）

作品概要

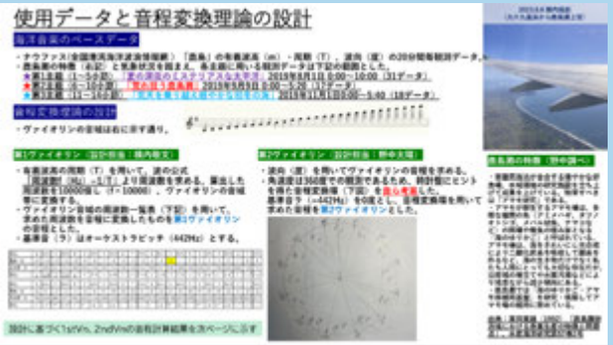
本研究は、「海の存在」そのものが「人の心の癒し（=社会的資源）」であることを自らの演奏により実証したものである。波浪観測値（波高・波向）を音程変換する独自理論を設計し、ここから導き出される音程を用いてヴァイオリン二重奏曲を創造した。更に作成した楽譜を自ら演奏し、その音源をフーリエ解析することで、作成した海洋音楽にモーツァルトレベルの「1/fゆらぎ（癒し効果）」が存在することを提示することができた。

審査員評

当財団の調査事業に関連していることから特別賞に選びました。波浪観測値を音楽にするという着眼点に興味をいだかされたこと、処理方法が海洋関係者のデータ取り扱いの基本に従っていること、その結果に工夫をして音に当てはめ、二重奏に仕立てあげたことを評価しました。出来た二重奏は私たちが平常時に海で感じる穏やかなものではなく、嵐の様でしたが、二重奏のもととなったデータの時期、場所を選ぶとまた違う曲が得られそうです。二人の次の曲が楽みになりました。

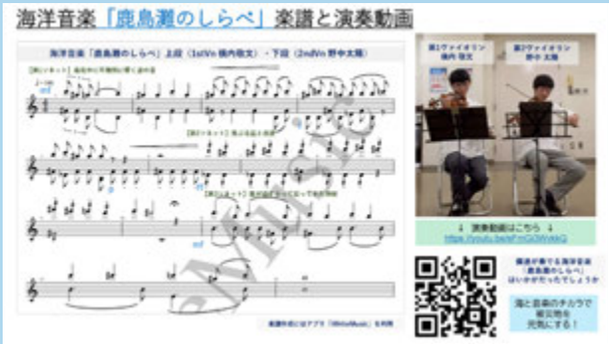
日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所　所長　渡邉　修一

④

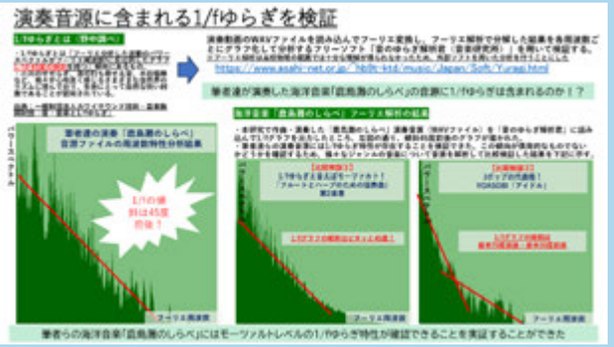


⑤

⑥



⑦

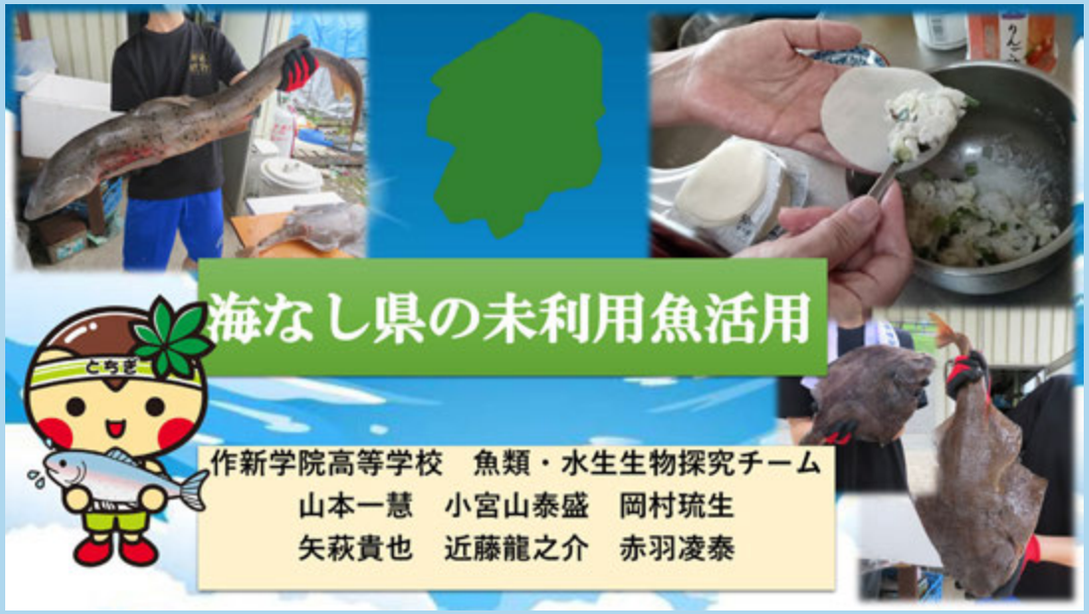


⑧

受賞者の声

ヴァイオリン奏者である僕達は、コロナ禍で多くの演奏の場が失われたことを契機に「音楽が地域社会のためにできること」に取り組んできました。受賞作品は、波浪データから音程変換した自らの演奏に含まれる心の癒し効果を検証し、「海と音楽のチカラで被災地を元気にする」という想いを伝えたものです。津軽海峡・太平洋・噴火湾という3つの海を臨む函館で発表の場を頂けたという素晴らしい経験を糧に、自らの人生を探究していきたいです。

①



②

③

マリン・カルチャー部門　**海の宝大賞（最優秀賞）**

/北海道大学水産学部賞

「海なし県の未利用魚活用」

山本一慧・小宮山泰盛・岡村琉生・矢萩貴也・近藤龍之介・赤羽凌泰

（作新学院高等学校　魚類・水生生物探究チーム）

作品概要

海なし県でもホンモノの海の魅力を体験したい！そう思い僕らは漁港へ。そこで目にしたのは捨てられた魚たち。
それが僕たちと未利用魚の出会いでした。この未利用魚を使って海なし県の魚カルチャーを盛り上げたい！そして未利用魚と呼ばれるこの魚たちを多くの人に知ってもらいたい。その思いを原動力に試行錯誤しながら未利用魚で宇都宮のソウルフード、餃子を作りました。地元を盛り上げたい県民愛と多くの人に未利用魚のことを知ってほしいという魚愛にあふれる作品です。

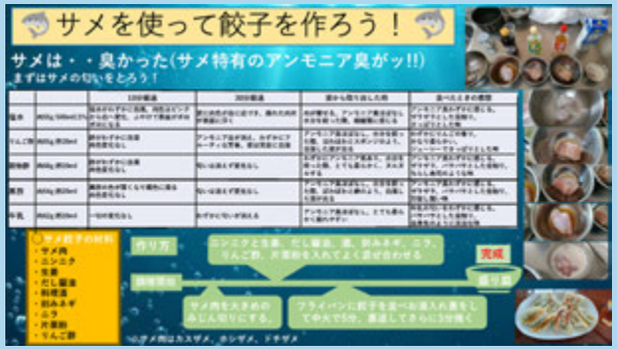
審査員評

世界的な問題として国連食糧農業機関（FAO）のレポートでも取り上げられている未利用魚や魚の加工残渣という大きな課題に、自分達でできる身近な方法で果敢に挑んだ点は高く評価できます。一枚一枚のスライドに少し情報を詰め込みすぎた感じで、字が小さくなって見にくい場合がありました。伝える内容を精選してシンプルなスライドを作るように心がければ、伝えたい内容をもっとダイレクトに伝えることができると思います。

北海道大学大学院水産科学研究院　教授・研究院長　都木　靖彰

④

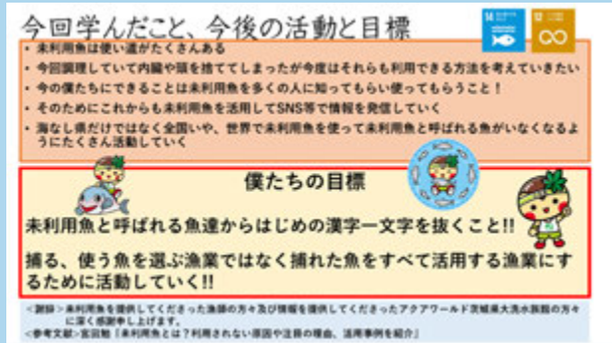
⑤



⑥

⑦

⑧



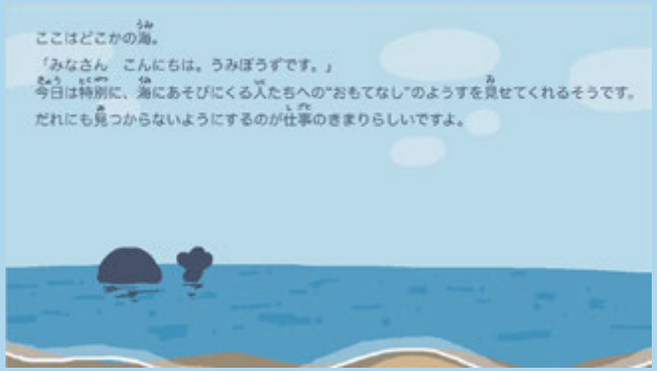
受賞者の声

関東・中部ブロックの数ある作品の中から海なし県である僕たちの作品が選ばれたことに、驚きと嬉しさを感じました。大会を通じて、多くの方に「未利用魚」について情報発信することができたこと、そして様々な学校の方との交流できたことは、これからの活動への大きな一歩となり、とても良い経験をさせていただきました。これからも魚への愛、県民愛そして海への愛を大切に活動していきます。

今回は本当にありがとうございました。

①

②



③

マリン・カルチャー部門　おとひめ賞
/マリンイノベーション特別賞
「うみぼうずのおもてなし」
村田吏（北海道函館中部高等学校）

作品概要

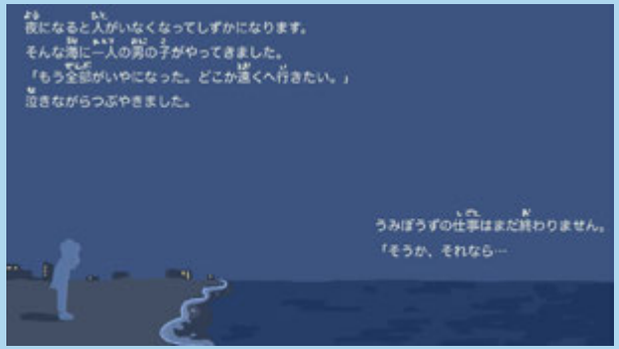
僕は海がとても好きです。綺麗な波の音や落ちている貝殻、ウミネコの鳴き声、時間によって表情が変わっていく様子など…そこにいるだけで心が落ち着き、どこかに少し希望が芽生える感覚が大好きです。これは自分だけでなく「海行かない？」と誘って一緒に行った友達もいつもより解放的になっているので、やはり海には人を元気にさせる“見えないエネルギー”があるのだと思います。そんなエネルギーを海の宝であり魅力の1つとして妖怪・うみぼうずを拝借して可視化した作品です。

審査員評

この作品は、今までのアカデミックコンテストで見たことが無いような非常に奥が深く、考えさせられるストーリー展開が魅力的でした。うみぼうずと言う架空の存在が自然を守りつかさどっているかの様に感じました。
一日で書き上げたと言うイラストの完成度も高く、このままでも絵本として出版できるのではないか？と感じました。うみぼうずシリーズとしての続編を期待させる作品でした。　　北海道マリンイノベーション株式会社　代表取締役　布村　重樹

④

⑤



⑥

⑦

⑧

受賞者の声

全国大会の出場権をいただいて初めて他の出場作品を見たとき、課題解決への姿勢やそれを実行していく行動力に圧倒されました。そのような中、私の作品は風変わりだったようで少々アウェイ感があったのですが（笑）、審査員の皆さんや参加者の方々から素晴らしい評価をいただくことができ嬉しかったです。

この経験をもとに、これからも自分なりの視点・表現を追求していきたいです。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

①

②

③

マリン・カルチャー部門　おとひめ賞
/千葉市科学館賞

「人心あれば魚心～手と鰭でつなぐ絆～」

大西寅ノ介　・後藤一樹・中西煌星（愛媛県立長浜高等学校）

作品概要

皆さんは「人心あれば魚心」という言葉を聞いて意味を想像できますか？この言葉は僕たちがキャッチコピーにしていた言葉です。そんな僕たちが皆さんに伝えたい海の宝は“人と魚との絆”です。「人心あれば魚心」という言葉は全く違う生き物でも好意的に寄り添い続けると、互いに心を通わせることができる、という意味です。このことわざが当てはまる“人と魚との絆”を感じることのできるエピソードを紹介していきます。

審査員評

当研究のテーマである「人と魚とのコミュニケーション」により成し得た事業成果であると共に，日常的に飼育種を対象とした生態系の研究プロセスが背景にある取り組みであると評価する．海洋教育推進に必要なことは研究者による学術的な発展も重要だが，次世代を担う若い層が「日常的に“海”に関わること」でその海に関する課題等を見いだし，それに実戦的かつ学術的なスタンスで対峙していくことがより重要と言える．

千葉市科学館　館長補佐　新　和宏

④

⑤

⑥

⑦

⑧

受賞者の声

私たちの海に関する活動を基にした作品で、おとひめ賞・特別賞を受賞させていただき、とても嬉しかったです。また、全国各地の熱意に溢れた参加者のみなさんとの交流も非常に良い刺激になり、「自分たちも負けていられない！」とやる気が湧き上がりました。私たちは、これからも海や魚と関わり続けていきます。その中で、本コンテストのような海や環境について考える機会を大切にし、積極的に参加していきたいです！魚と人がいつか手と鰭をつなげるような未来を目指して！

①

②

③

マリン・カルチャー部門　うらしま賞
/道南伝統食品協同組合賞
「海人を追いかけて」
糸数月香　・屋比久優妃・知念美音（沖縄県立那覇工業高等学校）

作品概要

私たちは写真部の活動で、ベテラン漁師の山城善勝さんと出会いました。山城さんと会って話をするなかで沖縄の海の存在について学びました。戦後の食糧難時代、海からの恵みにどんなに救われたか、そして！今、海が壊されようとしていることへの不安から私たちはどうするべきなのか考え始めました。

審査員評

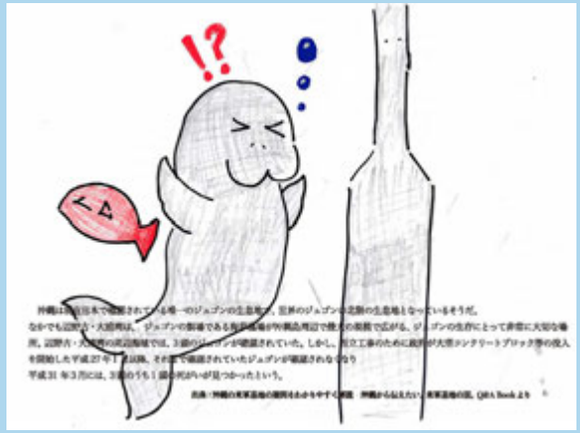
重いテーマになりがちな沖縄の海の環境問題について、グラフィックアーツ科ならではの臨場感あふれる写真と、地元の漁師さんの言葉を借りながら、皆さんが今感じている沖縄の海を守りたいという心情を、静かに語っていたことが印象的でした。アートによる静かな問題提起は、大きな声よりも人の心に残ることもあります。漁師さん以外にも、広く違う立場の方々にも話を聞いたり調べたりしながら、長く活動を続けて頂けたらと思います。

北海道大学大学院水産科学研究院　准教授　平松　尚志

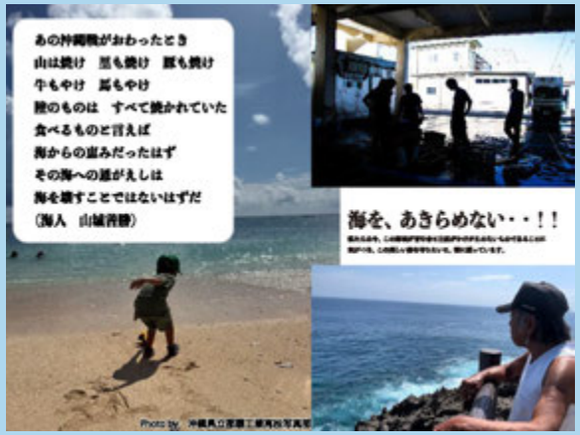
④

⑤

⑥



⑦



⑧

受賞者の声

今回は、頂上決戦に出場させていただき、本当にありがとうございました。発表中はとても緊張して大変だったのですが、審査員の先生のコメントを聞けたり、私たちのチームもうらしま賞や道南伝統食品協同組合賞を受賞することができとても嬉しかったです。ウミンチュの山城さんにもすぐ報告の電話をしました！これからもこの海のかけがえのなさ美しさを守れるように強くなっていきたいと思います。

①

②

③

マリン・カルチャー部門　うらしま賞
/日本財団賞

「京のはあもにい！～京都発世界！
レトルト食品　（鱧の西京味噌煮）の可能性を追求せよ～」
江部花音・上山幸菜（京都先端科学大学附属中学校・はあもにいず）

作品概要

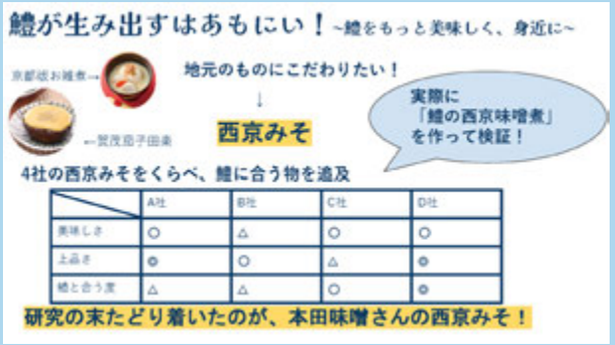
京都の夏の風物詩として古くから愛されてきた魚、鱧。私達はあもにいずは、この海の宝である鱧の魅力をもっと発信したいと考えた。地元の老舗の味噌、醤油を使用し、鱧の西京味噌煮「京のはあもにい」を作製した。（株）京都クッキング・ラボの協力を得てレトルト加工を行い、現在もさらなる美味しさを求め試作を重ねている。また細菌検査を行い安全性も確認中である。世界に広がれ、うちらの京のはあもにい！

審査員評

多くの作品の中で明るくかなり優れ、頂上発表していただきました。プレゼンは伸びやかでいきいきした発表で、受賞おめでとうございます。京都伝統の鱧、西京味噌、醤油の調和を未来志向でどこでもいつでも食べやすく安全という要素をパッキングしたレトルト食品の開発プロセスは魅力的で、「海の宝」を多くの人々に味わっていただく心持ちにあふれていました。中学生チームがアイデアと美食と社会実現化を込め、高校生の作品を大きく越える作品になりました。あとで試作品もいただき食べました。鱧はしっかりした肉で凝縮した味の存在感がありました。身を砕くとかなりの量ですね。水分調整でさらに風味と保存が増したふりかけになるかもしれません。

北海道立工業技術センター・センター長 安井 肇

④



⑤

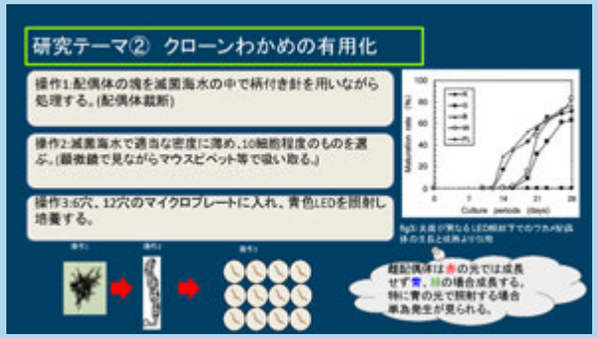
⑥

⑦

⑧

受賞者の声

初めて降り立った北の大地！正直かなり緊張していましたが話し始めると楽しくて仕方なかったのを覚えています。鱧という魚を通じて、海のめぐみの尊さや故郷で育まれた優れた文化について知識を深めることが出来ました。また他の方の発表も非常に面白いものばかりで好奇心が擽られました。これからも私たちの「京のはあもにい」は成長し続けます！こうご期待！



優秀賞

北海道・東北ブロック　マリン・サイエンス

「宮城のわかめ養殖を助ける～わかめの定量的観察とクローンわかめ有用化～」

菊地兼太朗・井上康介・千葉瑛翼・我妻優史・千田琴乃・木下倫那・青木駿和（宮城県仙台第三高等学校）

優秀賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「海や川を本来の姿に戻すロボットの製作～ゴミを集めるサメ～」

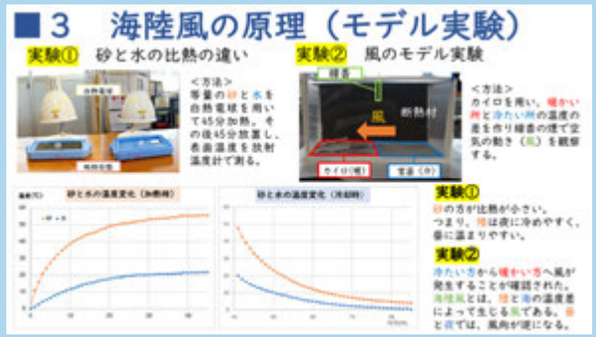
竹林愛未・永田賢之介・森隆司・モリス嘉幸樹・山﨑隆人・和田沙来（東京工業大学附属科学技術高等学校）

優秀賞

近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス

「海水で食糧難を救う！？」

小谷真央・足立共・木野晴菜・堀口幸博・森田暖大（関西大倉高等学校）

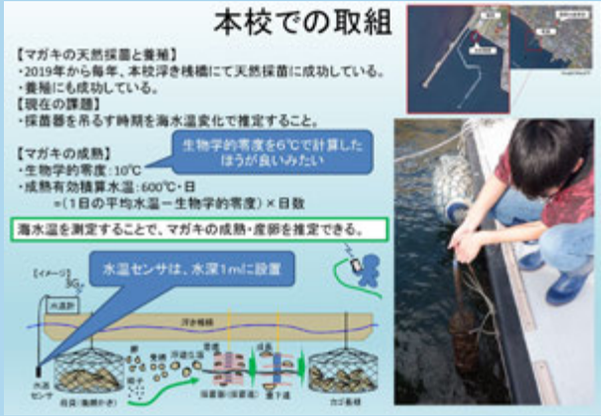


優秀賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス

「不知火海を吹く風を探る～気象観測所のない永尾を吹く風の推測～」

徳丸亮汰・新宅草太・本田琢磨・西川幸輝・吉田大暉・小林瑞・米田直人・村上聖真（熊本県立宇土高等学校科学部地学班）



奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・サイエンス

「毎年の季節ごとの海水温の変化が生物の営みを支える」

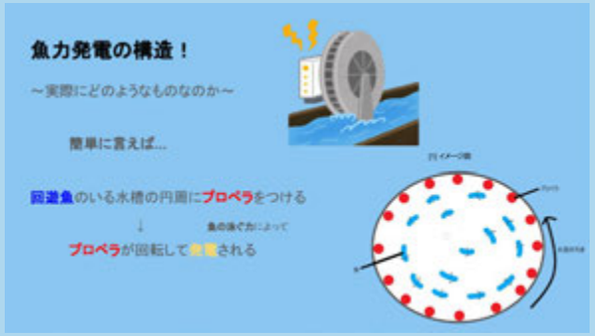
本多琥珀・清水大雅・大山初姫・神采花・山本怜・松本圭一郎（北海道函館水産高等学校海洋技術科課題研究２班）

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・サイエンス

「安心して魚をまるごと食べたい」

大串雪花（北海道教育大学附属旭川中学校）

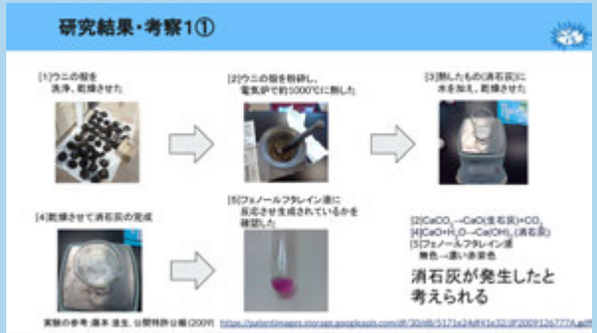


奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「魚力で発電!?」

中村昌嗣・岩﨑凌・須藤達紀（佐野日本大学中等教育学校 BOKU 達文系なんです。）

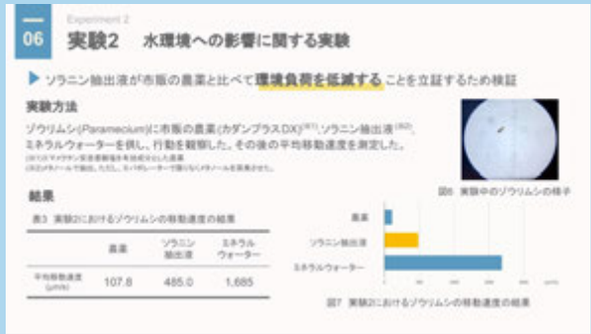


奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「ウニからの漆喰工芸プロジェクト～海洋保護とアートの融合～」

加藤浬大（智学館中等教育学校）

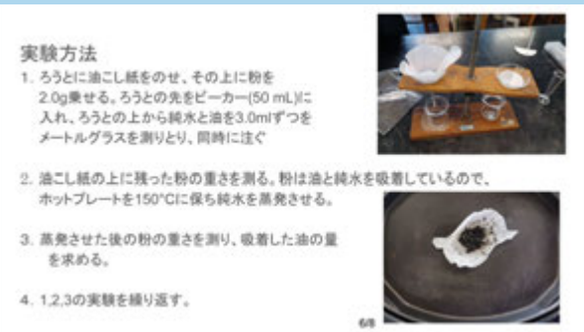


奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「ジャガイモ由来天然毒素成分ソラニンを用いた環境負荷低減農薬開発の検討」

井手渚・岡田智愛・紺野悠菜（神奈川県立厚木高等学校）



奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「魚由来の油吸着材の作成の検討」

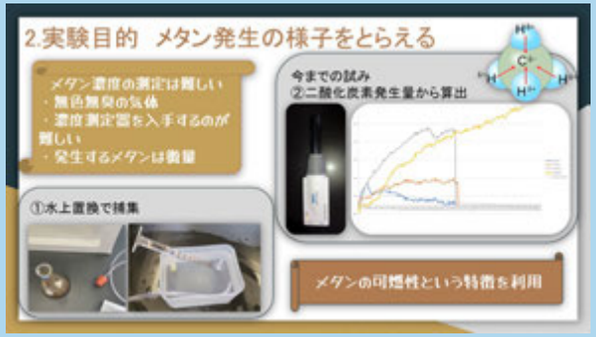
梶雅・小山夏奈・寺田結月・山崎はるか・鈴木芙果（神奈川県立厚木高等学校）

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「強いサンゴを探せ！
一移植先でも負けないサンゴの探索一」

磯川昴（玉川学園 中学部）

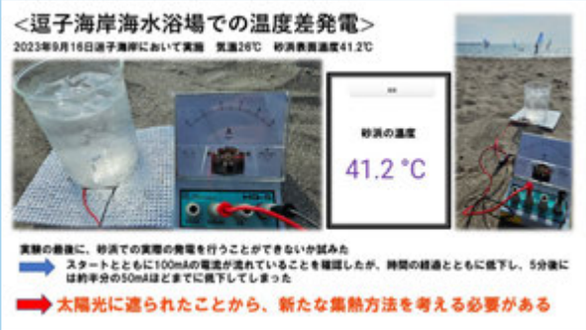


奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「メタン発酵物語」

佃諒祐・川西琳大（神奈川県逗子開成高等学校）



奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「半導体を用いた温度差発電
～砂浜発電の実用化に向けて～」

田口翔陽・近藤寛人・宮川陽輝

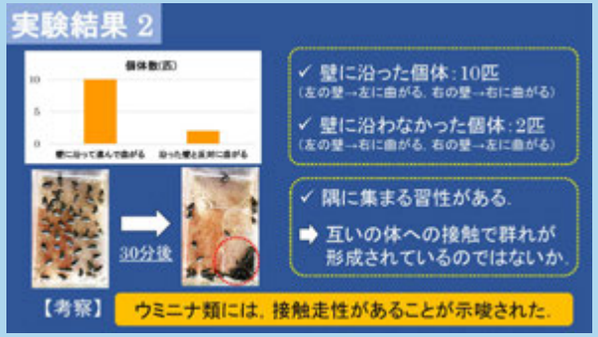
（神奈川県逗子開成高等学校）

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・サイエンス

「μCTを用いたホシザメの歯と鱗の
構造的関連性」

栗山奈月（青稜高等学校）



奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス

「まだ知られていない巻き貝の行動
～米子湾におけるウミニナ類の選好場所～ 」

山下慶・野﨑紗渚・森本彩吹

（岡山学芸館高等学校）

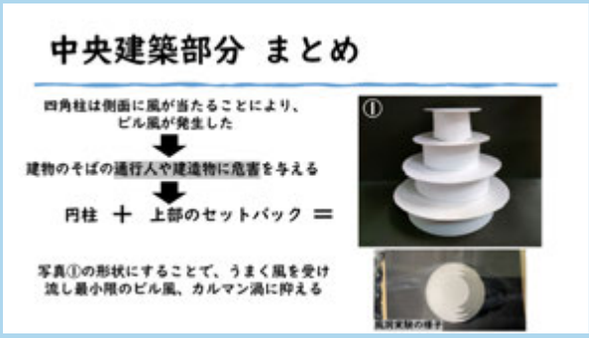
奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス

「全てのアマモ実生を青葉に - もやし化さ
せずに本葉展開させるプロトコル開発 - 」

直野璃々花・岩本深那・時岡小舞・前谷日向

（岡山学芸館高等学校）



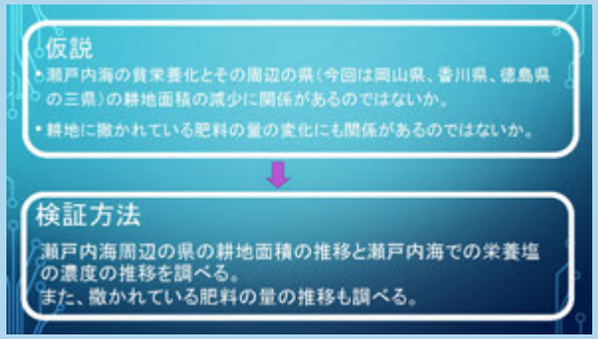
奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス

「海上都市の実現に向けて」

原田裕史・有本大哉・畑森瞬助

（岡山学芸館高等学校）

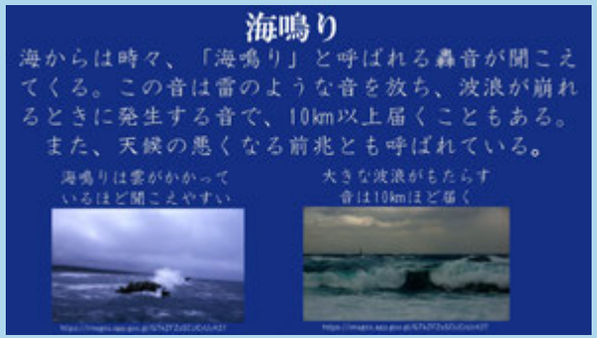


奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・サイエンス

「瀬戸内海の栄養塩濃度と耕地面積の変化の
関係について」

鶴野敦也（岡山学芸館高等学校）

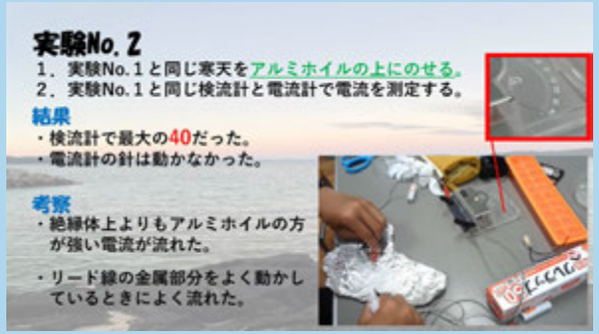


奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス

「海の音について」

藤原莞大（徳島県立徳島科学技術高等学校）



奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス

「寒天電池を活用した災害時の避難具の開発」

坂下 弘典・窄大和・水戸翔大・小幡一路

（長崎県立五島高等学校）

奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・サイエンス

「浮島現象の発生・観測条件～再現実験と野外観測から考える」

徳丸亮汰・新宅草太・本田琢磨・西川幸輝・吉田大暉・小林瑞・米田直人・村上聖真

（熊本県立宇土高等学校科学部地学班

優秀賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「さんごしょうに　みなさんごしょうたい」

都筑暖和（北海道札幌南高等学校）

優秀賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー

「海鳥が地球を救う！？」

手島晴風（千葉敬愛高等学校）・

手島幸風（千葉市立有吉中学校）

優秀賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー

「鳴り砂から考える海洋問題」

川口聡太郎・黒川翔太（岡山学芸館高等学校）

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「海のインスタレーション」

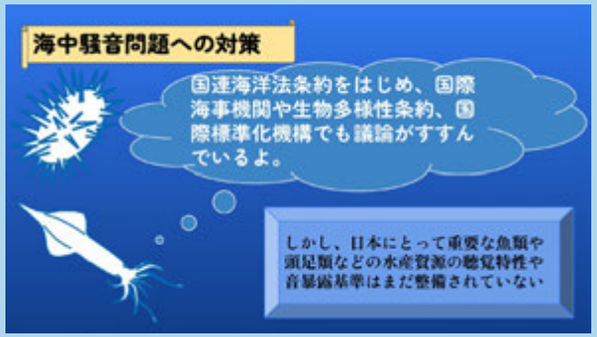
北海道七飯養護学校高等部1年

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「『海のコラージュ』ができるまで」

北海道七飯養護学校中学部１年

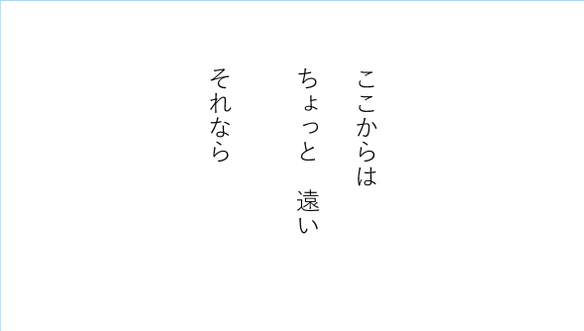


奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「海の音」

佐々木彪人（東北学院高等学校）



奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「海へゆく～虹の海へ」

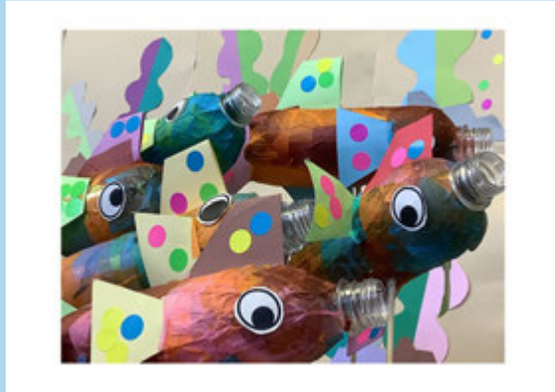
北海道函館養護学校高等部Ａグループ

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「続・海へゆく～海をつくる」

北海道函館養護学校高等部Ａグループ



奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「ホッシのプラップラッ」

北海道函館養護学校高等部Ｂグループ

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「モクズガニの食用利用について」

佐藤悠太（札幌開成中等教育学校）

	見た目	匂い・味
わかめペースト10%	食欲があまりそそられない黒に近い緑	昆布やアカモクの匂いに近い
オーシャンファイバーわかめ10%	わかめのイメージに近い緑	ペーストよりはわかめに近い

	生地の感触	見た目
菓子・料理用	硬い	薄くひび割れ
スイーツ用	とても硬い	とてもひび割れ
パン用	少し弾力	薄いパン

パン用米粉	マシュマロ風米粉	生地の感触	見た目
80g	20g	クリスピーに近い	薄い
75g	25g	ももも感あり	膨らみ小
70g	30g	とてももちもち	よく膨らんだ

水の量	生地の感触	見た目
95g	少々粉感	粉っぽい
100g	内:もっちり外:パリッと	まとまっている
105g	内:少しねっとり外:少しパリッと	まとまっている
110g	内:ねっとり外:パリッとしない	まとまっている

奨励賞

北海道・東北ブロック　マリン・カルチャー

「健康に配慮したわかめピザ」

後藤桃彩・佐々木愛花・渡辺真生・村上琉月

（宮城県仙台第三高海のたすけ愛等学校）

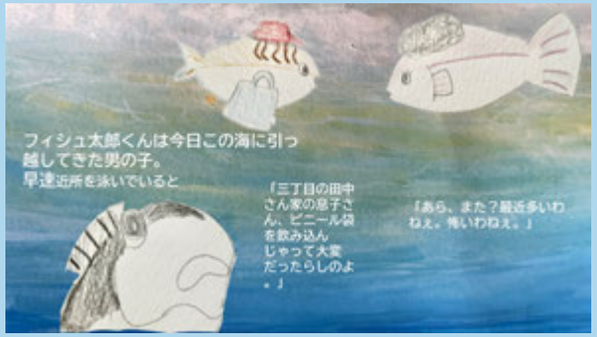
奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー

「アオサでMagic Cooking」

新谷悠・園田星空・永宮知花

（福井県立若狭高等学校）

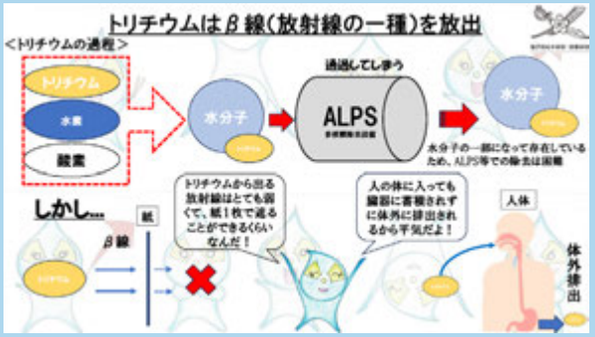


奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「フィシュ太郎とゴミの遊び場」
亀田紫乃・阿部光陽・牛込奈優里・澤井音羽
（佐野日本大学中等教育学校 チームフィシュ太郎）

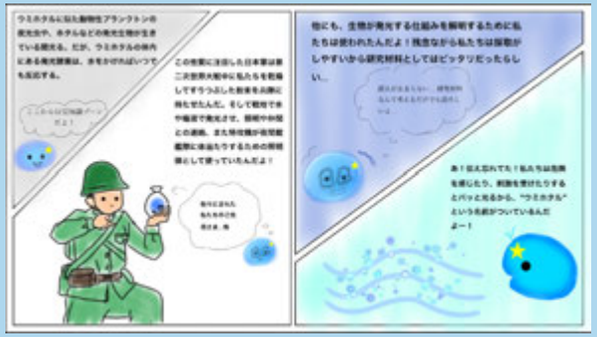
奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「海のたすけ愛」
小林碧・小林優華
（茨城県立並木中等教育学校）



奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「～福島第一原子力発電所～ALPS処理水について」
稲葉一仁（神奈川県逗子開成高等学校）



奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「夜のイルミネーション：ウミホタル」
中山真央子・十川理世（市川高等学校）

奨励賞

関東・中部ブロック　マリン・カルチャー
「手賀沼流域のイシガイ目二枚貝
～川でも見つかる二枚貝！？～」
小野亮太朗・松永怜也
（東邦大学付属東邦高等学校）

奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー
「クライシーストーリー（CRY SEA STORY）」
島貫菜々・藤澤心・長井裕菜・三谷蒼天
（大阪府立生野高等学校）

奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー

「音におっとおどろき！！」

佐藤凪　・小柴結依子

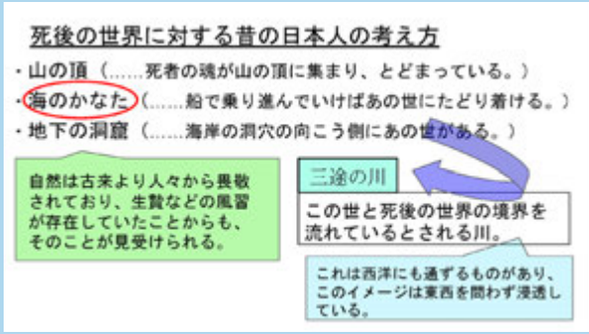
（近畿大学附属豊岡高等学校）

奨励賞

近畿・中国ブロック　マリン・カルチャー

「エコロケーションの秘密」

赤田琉衣（岡山学芸館高等学校）



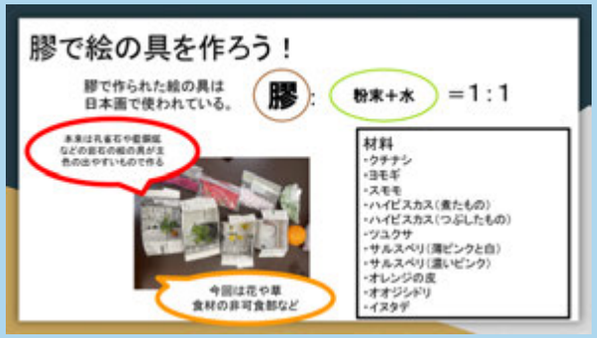
奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー

「海と死後の世界のつながりについて」

吉川真央・フィッシャー竹下花菜・白石群丈

（沖縄尚学高等学校）



奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー

「廃棄物で何ができるか」

大山紬菜・菊野夏音（大島高等学校）

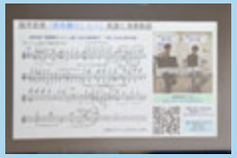
奨励賞

四国・九州・沖縄ブロック　マリン・カルチャー

「Honey＆Coral Project」

當間南々穂（沖縄県立開邦高等学校）

當間一翔（那覇市立石田中学校）



日本財団
THE NIPPON FOUNDATION
海と日本
PROJECT

海の宝アカデミックコンテスト2023 全国大会 -海と日本PROJECT-　審査員名簿

安部 智貴	函館国際水産・海洋都市推進機構
飯田 高大	北海道大学水産学部附属練習船 うしお丸
今村　央	北海道大学大学院水産科学研究院
岩本登志雄	海文堂出版株式会社
宇治 利樹	北海道大学大学院水産科学研究院
浦　和寛	北海道大学大学院水産科学研究院
大西 広二	北海道大学大学院水産科学研究院
笠井 久会	北海道大学大学院水産科学研究院
春日井 隆	名古屋港水族館
川合 祐史	北海道大学大学院水産科学研究院
川越　力	共和コンクリート工業株式会社 海藻技術研究所アルガテックKyowa
川邉由里子	株式会社海遊館
菊池 基弘	サケのふるさと千歳水族館
岸村 栄毅	北海道大学大学院水産科学研究院
岸元 祐二	函館市企画部国際水産・海洋都市推進室
木村 暢夫	北海道国際交流センター(HIF)
工藤　勲	北海道大学大学院水産科学研究院
工藤 秀明	北海道大学大学院水産科学研究院
米山 和良	北海道大学大学院水産科学研究院
齊藤 拓男	株式会社道新アクセス
佐々木 章	かごしま水族館
佐々木建一	海洋研究開発機構　地球環境部門 むつ研究所
佐々木ゆり	ライター・管理栄養士
清水 宗敬	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
新　和宏	千葉市科学館
都木 靖彰	北海道大学大学院水産科学研究院
高橋 勇樹	北海道大学大学院水産科学研究院
髙原 英生	北海道立総合研究機構　栽培水産試験場
多田 邦尚	香川大学農学部
鉄 多加志	東海大学海洋学部
長江 真樹	長崎大学水産・環境科学総合研究科
中田 邦彦	日本分析化学専門学校
中屋 光裕	北海道大学大学院水産科学研究院
中山 一郎	株式会社医食同源
成田 幸大	道南伝統食品協同組合
布村 重樹	北海道マリンイノベーション 株式会社
畠　隆	北海道大学　ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点
平松 尚志	北海道大学大学院水産科学研究院
福田　覚	地域水産業共創センター
藤田 秀樹	函館国際水産・海洋都市推進機構
藤森 康澄	北海道大学大学院水産科学研究院
星　直樹	北海道大学水産学部附属練習船 おしょろ丸
細川　雅史	北海道大学大学院水産科学研究院
松石　隆	北海道大学大学院水産科学研究院
水田 浩之	北海道大学大学院水産科学研究院
溝垣 春奈	日本財団　海洋事業部　海洋環境チーム
宮下 和士	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
宮田 昌彦	放送大学
村田 良介	長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター
安井　肇	北海道立工業技術センター
安間　洋樹	北海道大学大学院水産科学研究院
山木 将悟	北海道大学大学院水産科学研究院
山口　綾	函館市企画部国際水産・海洋都市推進室
山下　俊介	北海道大学大学院水産科学研究院
山本　潤	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
横川 真奈美	公立はこだて未来大学
吉野 博之	函館地域産業振興財団
和田　哲	北海道大学大学院水産科学研究院
渡邉 修一	日本海洋科学振興財団　むつ海洋研究所
綿貫　豊	北海道大学大学院水産科学研究院

海と日本PROJECT サポートプログラム
海の宝アカデミックコンテスト2023・ホンモノの海の魅力を体験しよう（海と日本2023）

運営委員会委員

都木 靖彰，工藤 秀明，藤森 康澄，細川 雅史（北海道大学大学院水産科学研究院），山口 綾（函館市企画部 国際水産・海洋都市推進室），田柳 恵美子（公立はこだて未来大学），藤田 秀樹（函館国際水産・海洋都市推進機構），安井 肇，吉野 博之（北海道立工業技術センター・函館地域産業振興財団） 渡邉 修一（日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所）

実行委員会委員

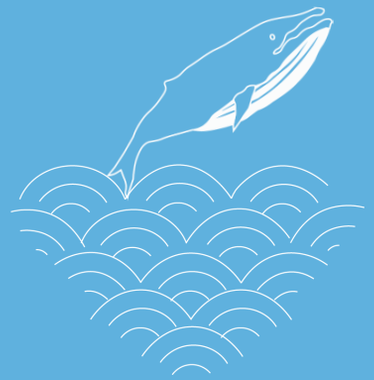
宇治 利樹，浦 和寛，大西 広二，笠井 久会，岸村 栄毅，工藤 秀明，米山 和良，都木 靖彰，高橋 勇樹，中屋 光裕，埜澤 尚範，平松 尚志，藤森 康澄，細川 雅史，水田 浩之，山木 将悟，綿貫 豊，和田 哲（北海道大学大学院水産科学研究院），清水 宗敬，宮下 和士，山本 潤（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター），飯田 高大（北海道大学水産学部附属練習船うしお丸），星 直樹（北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸），安部 智貴（函館国際水産・海洋都市推進機構），川越 力（共和コンクリート工業株式会社 海藻技術研究所アルガテックKyowa），菊池 基弘（サケのふるさと千歳水族館），岸元 祐二（函館市企画部 国際水産・海洋都市推進室），川邉 由里子（株式会社海遊館），齊藤 拓男（株式会社道新デジタルメディア），佐々木 章（かごしま水族館），佐々木 建一（海洋研究開発機構 地球環境部門 むつ研究所），佐々木 ゆり（ライター・管理栄養士），新 和宏（千葉市科学館），多田 邦尚（香川大学農学部）

海の宝2023

発 行 日 ： 2024年2月16日

発　　行 ： 海と日本PROJECT サポートプログラム
「海の宝アカデミックコンテスト2023・ホンモノの海の魅力を体験しよう（海と日本2023）」実行委員会

問 合 せ ： 北海道大学大学院水産科学研究院 マリン・ラーニング事務局
〒041-8611 北海道函館市港町３丁目１番１号
【TEL】 (0138) 40 - 5544 【FAX】(0138) 40 - 8889
【MAIL】 umicon@fish.hokudai.ac.jp 【HP】 https://www.umicon.jp

印　　刷 ： 江戸製版印刷（株）

このイベントは、海と日本PROJECTの一環で実施しています